

令和6年9月17日

## 令和5年度「国語に関する世論調査」の結果をお知らせします

文化庁では、国語施策の参考とするため、平成7年度から毎年「国語に関する世論調査」を実施しています。この度、令和5年度に実施した結果がまとまりましたので、発表します。

### 1 調査の概要

調査目的：日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。

調査対象：全国16歳以上の個人

調査時期：令和6年3月

調査方法：郵送法

回収結果：調査対象総数 6,000人  
有効回収数（率） 3,559人（59.3%）

### 2 調査項目

- ① 国語への関心
- ② ローマ字表記・外来語の表記
- ③ 読書の在り方
- ④ 慣用句等の意味・言い方 など

### 3 添付資料

- 令和5年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

<本件担当> 文化庁国語課  
国語課長 村瀬 剛太（内線 2837）  
主任国語調査官 武田 康宏（内線 3157）  
国語調査官 町田 亙（内線 2842）  
電話：03-5253-4111（代表）  
03-6734-2840（直通）

# 令和5年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

## 調査目的・方法等

調査主体：文化庁国語課（業務委託先：一般社団法人中央調査社）

調査目的：現在の社会状況の変化に伴う日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。

調査時期：令和6（2024）年 1月16日～3月13日

調査対象：全国16歳以上の個人

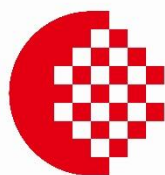
調査対象総数 6,000 人

有効回答数（率） 3,559 人 （ 59.3% ）

調査方法：郵送法

※ 令和2（2020）年度から郵送法で調査を実施している。令和元（2019）年度以前は面接聴取法で実施していた。

※ 調査方法の異なる令和元年度以前の調査結果は参考値となるため、比較には注意が必要である。



文化庁

## 備考

- ・ 百分比は、各質問の回答者数を 100%として算出し、小数第 2 位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が 100%にならない場合がある。内訳とその小計においても同様である。
- ・ 百分比の差を示す「ポイント」については、小数第 1 位を四捨五入して示した。
- ・ 一つの質問に二つ以上の回答をすることができるもの（調査票で「○は幾つでも」、「○は三つまで」等と二つ以上の回答個数が可能である質問）では、回答率の合計が 100%を超えることがある。
- ・ 「付問」は、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- ・ 図表等に「n=1,000」等と示されているのは、その問いの回答者数の総数である。特に示されていない場合は今回調査全体の回答者数（3,559）となる。
- ・ 図表等で回答の割合を「-」と表示しているのは、回答者がいなかった場合である。「0.0」と表示してあるのは、回答者が 1 人以上いるが、百分比の小数第 2 位を四捨五入した結果、「0.0」となったものである。
- ・ 各質問の冒頭で、（\*P.10）等と示されたページ数は、本調査の報告書において、該当する質問が記載されているページである。
- ・ 令和 5 年度調査では、令和 6 年能登半島地震の影響を考慮し、調査対象者の抽出は完了していたが、北陸地方（石川県、富山県、新潟県、福井県）の調査対象者については、次のようにすることとした。
  1. 「被災者生活再建支援法」が適用された地域（石川県全域（62 人）、新潟県新潟市（38 人）、富山県氷見市（今回調査対象外））の調査対象者（計 100 人）については調査を自粛することとし、実施を見送った。
  2. 調査の実施を取りやめた地域以外の北陸地方の調査対象者には、1 月 23 日から調査票を発送した。

# 目 次

## I 国語とコミュニケーションに関する意識

<問1>	国語への関心	1
<問1付問>	関心がある点	3
<問2>	日本語がよく分からない人に道などを聞かれたら、答えようと思うか	5
<問2付問>	どのように答えようと思うか	6
<問3>	英語の国際語化についての考え	8
<問4>	日本語の特徴で魅力を感じるころ	10

## II ローマ字・外来語表記に関する意識

<問5>	どのローマ字表記が読み書きしやすいか	12
<問6>	外来語の表記	17

## III 読書と文字・活字による情報

<問7>	1か月に読む本の冊数	23
<問7付問1>	本以外の文字・活字による情報を読む機会	24
<問7付問2>	読む本の選び方	25
<問8>	読書量の変化	27
<問8付問1>	読書量が減っている理由	28
<問10>	電子書籍の利用	30
<問10付問>	電子書籍と紙の本とでどちらを多く利用するか	32
<問11>	文字・活字による情報に触れる時間の変化	34

## IV 言葉遣いに対する印象や慣用句等の理解

<問12>	使うことがある言葉か（「まったり」「もふもふ」等）	35
<問13>	気になる言葉か（「まったり」「もふもふ」等）	38
<問14>	どちらの言い方をするか（「間髪を入れず」「綺羅星のごとく」等）	41
<問15>	どちらの意味だと思うか（「悲喜こもごも」「失笑する」等）	43

# I 国語とコミュニケーションに関する意識

\* 報告書におけるページ数

## <問1> 国語への関心 (\* p.5)

— 「関心がある(計)」が約8割 —

### 〔問1：質問〕

あなたは、日常の言葉遣いや話し方、あるいは文章の書き方など、国語について、どの程度関心がありますか。(一つ回答)

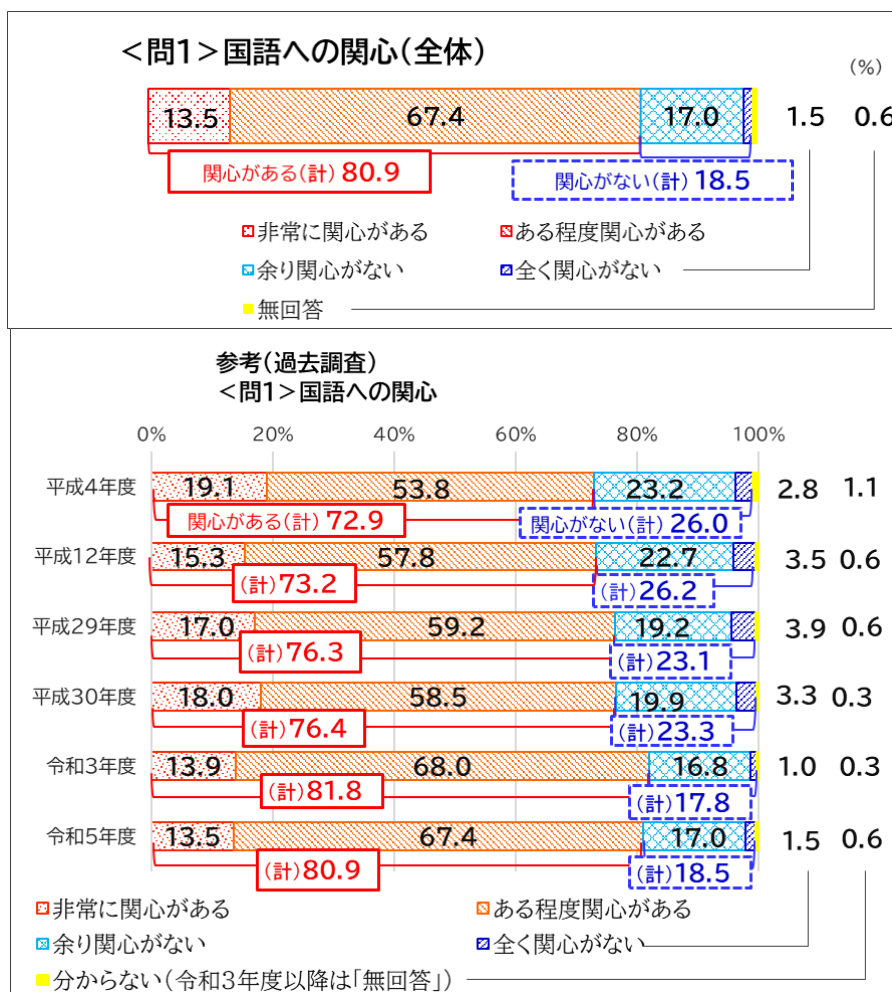
### 〔問1：全体の結果、(参考)過去の調査結果〕

結果は次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

「非常に関心がある」を選択した人の割合が13.5%、「ある程度関心がある」が67.4%で、この二つを合わせた「関心がある(計)」は80.9%となっている。一方、「全く関心がない」は1.5%、「余り関心がない」は17.0%で、この二つを合わせた「関心がない(計)」は18.5%となっている。

また、調査方法が変わったため、令和元(2019)年度以前の調査結果については、今回(令和5年度)の調査結果との比較に注意が必要だが、過去の調査結果(平成4、12、29、30、令和3年度)を参考値として下のグラフに示す。

過去の調査結果においては、「関心がある(計)」の割合がやや増加傾向にあった。

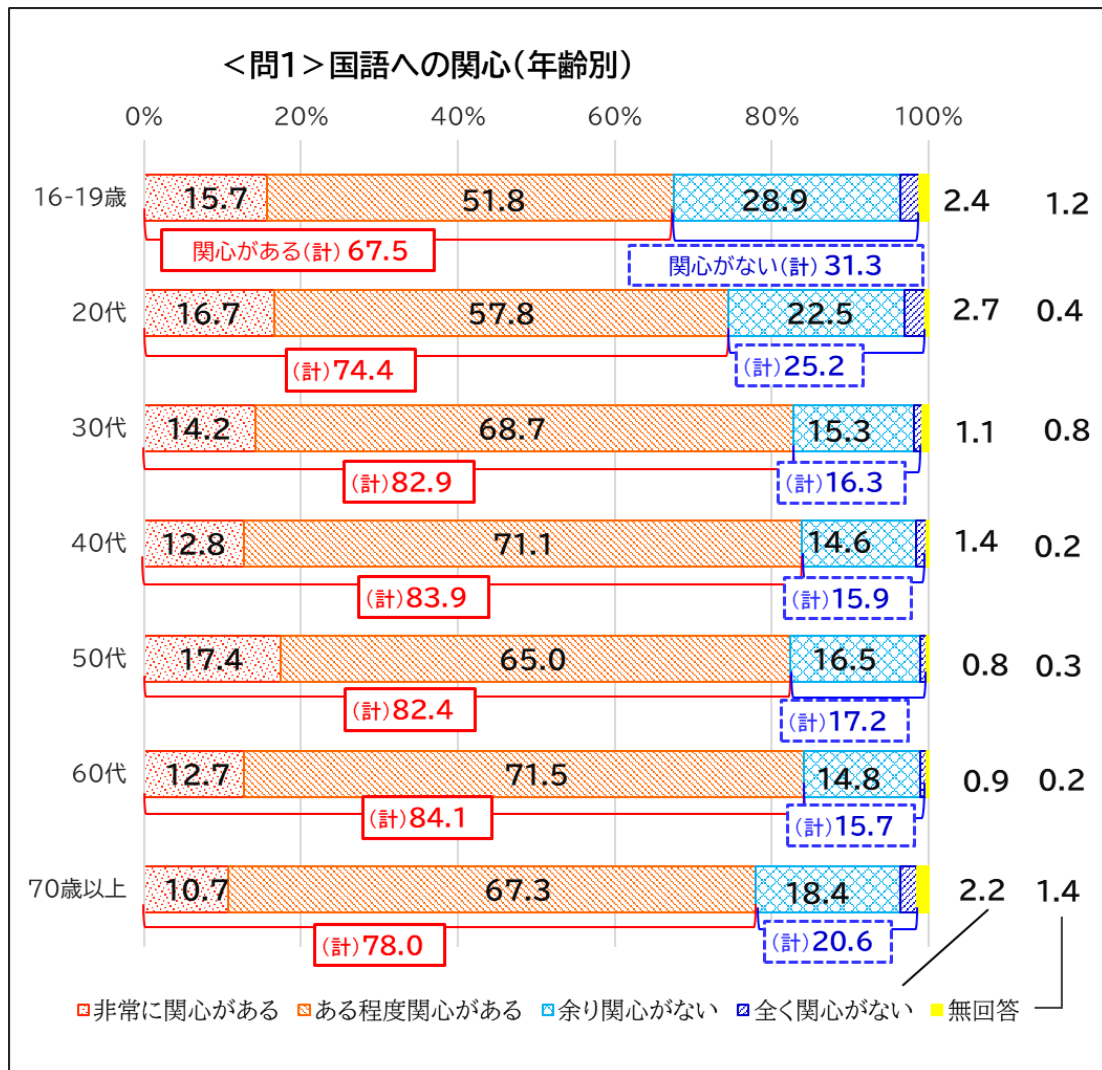


\* 調査方法の変更のため、令和元(2019)年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

〔 問1：年齢別の結果 〕

年齢別の結果は、次のグラフのとおり。

「関心がない（計）」の割合は、20代以下でほかの年齢層よりやや高く2割台半ばから3割台となっている。



<問1付問> 関心がある点 (\* p.7)

— 「日常の言葉遣いや話し方」が約8割と最も高い—

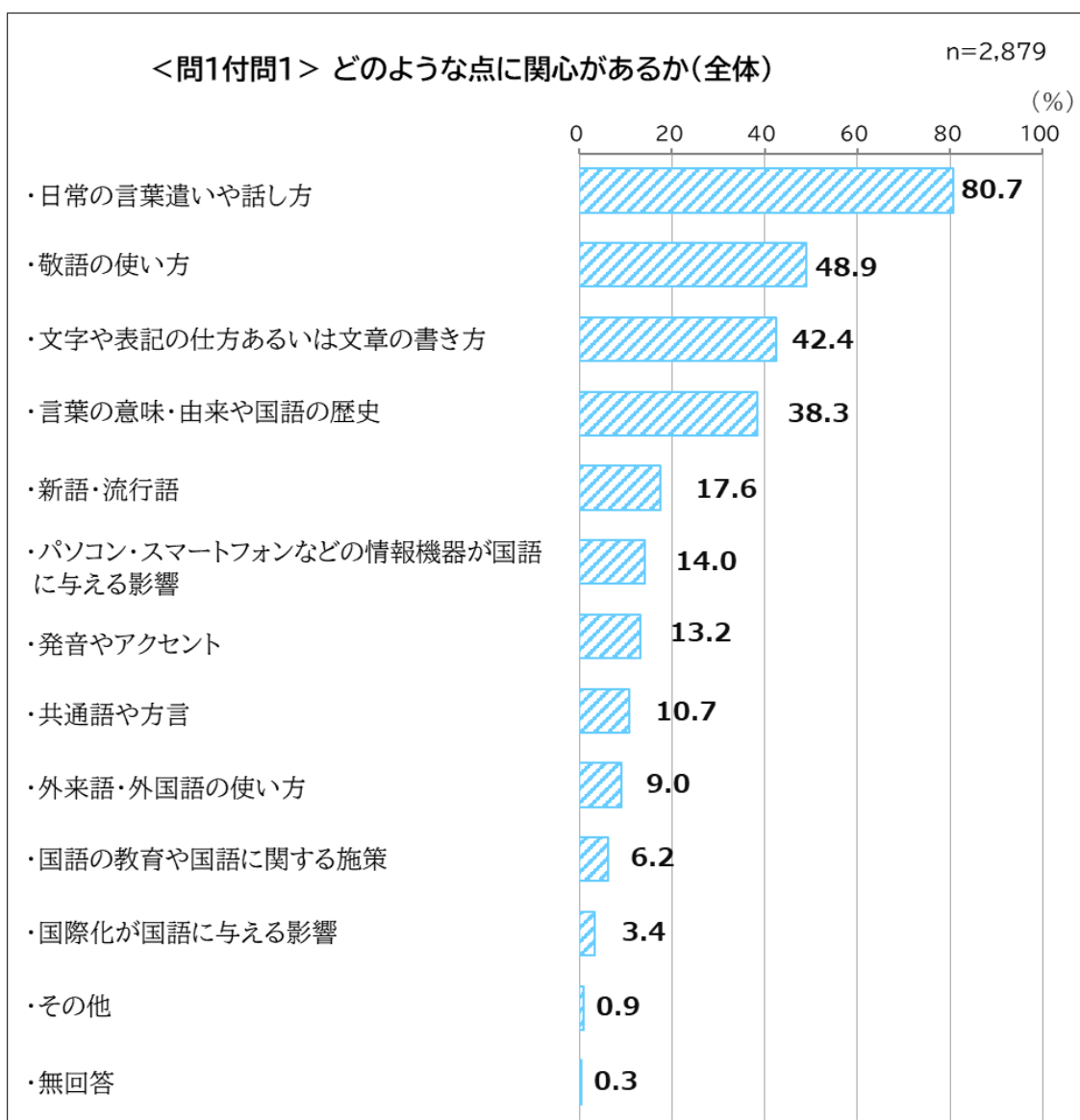
〔問1付問：質問〕

（問1で「非常に関心がある」、「ある程度関心がある」と答えた人（全体の80.9%）に対して）  
国語のどのような点に関心がありますか。（三つまで回答）

〔問1付問：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。）

「日常の言葉遣いや話し方」を選択した人の割合がほかに比べて高く80.7%となっている。次いで「敬語の使い方」（48.9%）、「文字や表記の仕方あるいは文章の書き方」（42.4%）、「言葉の意味・由来や国語の歴史」（38.3%）が4割弱から4割台となっている。



〔 問1 付問：年齢別の結果 〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

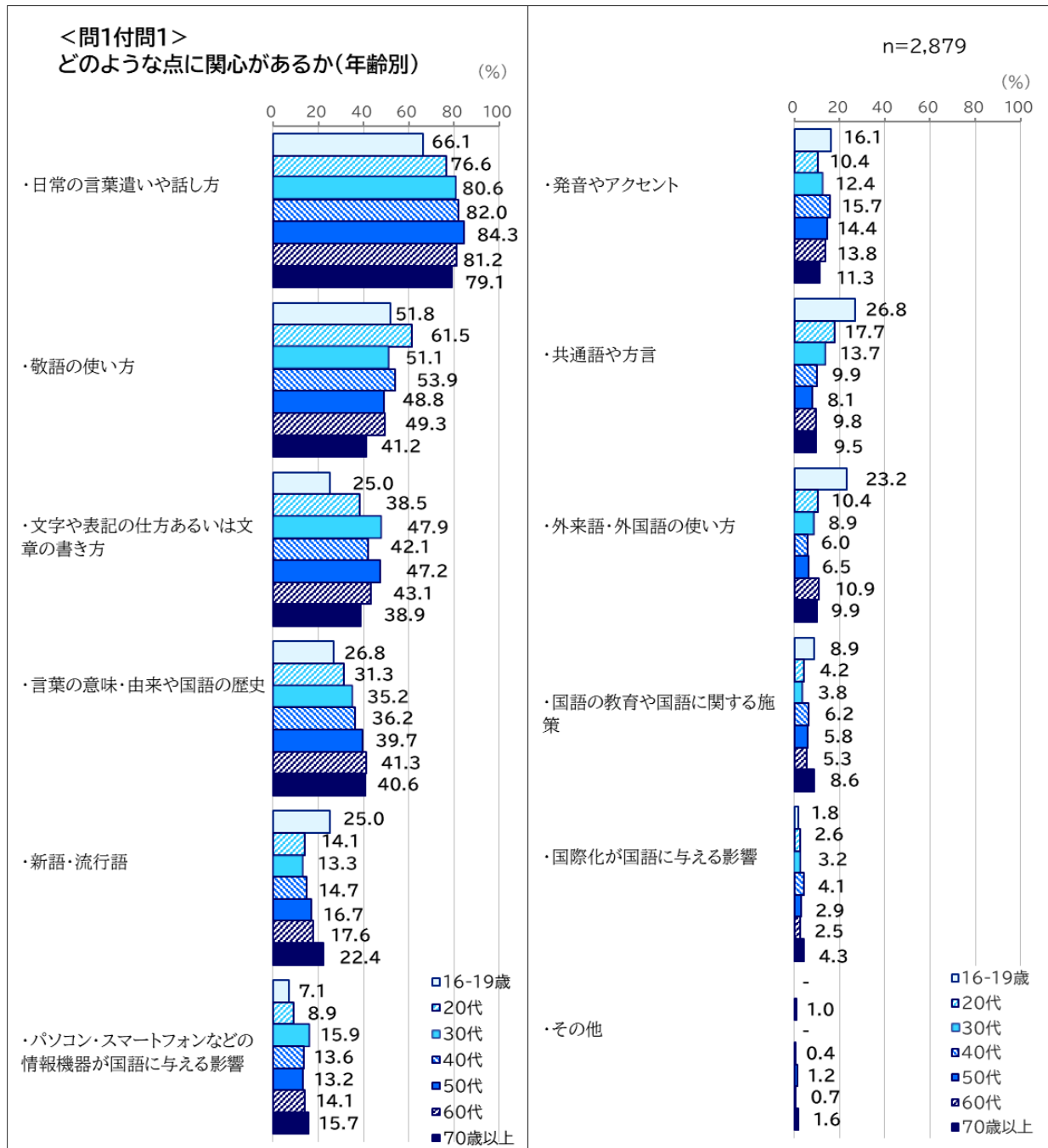
「日常の言葉遣いや話し方」は、16～19歳で他の年齢層より低く66.1%となっている。

「敬語の使い方」は、20代で他の年齢層より高く61.5%となっている。

「文字や表記の仕方あるいは文章の書き方」は、30代と50代で他の年齢層より高く4割台後半となっている。

「言葉の意味・由来や国語の歴史」は、年齢が高いほど割合が高くなる傾向にある。

「新語・流行語」は16～19歳と70歳以上で、「共通語や方言」「外来語・外国語の使い方」は16～19歳で、それぞれ他の年齢層より高く2割台となっている。





<問2>日本語がよく分からない人に道などを聞かれたら、答えようと思うか

(\* p.10)

— 「なるべく答えようとする」が約9割 —

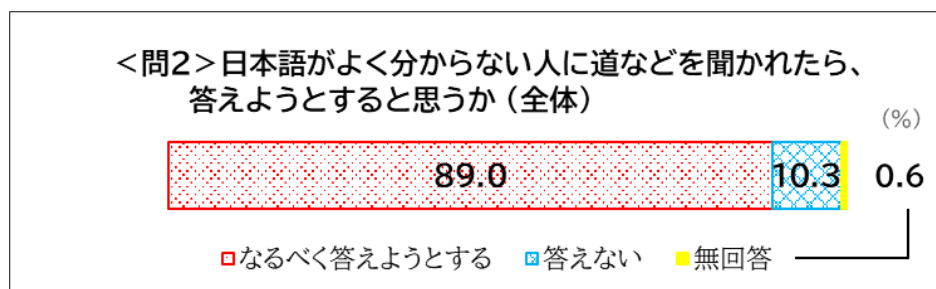
〔問2：質問〕

外国から来た人など、日本語がよく分からない人に道などを聞かれたとしたら、あなた自身は、それになるべく答えようと思うと思いますか。それとも、答えないと思いますか。（一つ回答）

〔問2：全体の結果〕

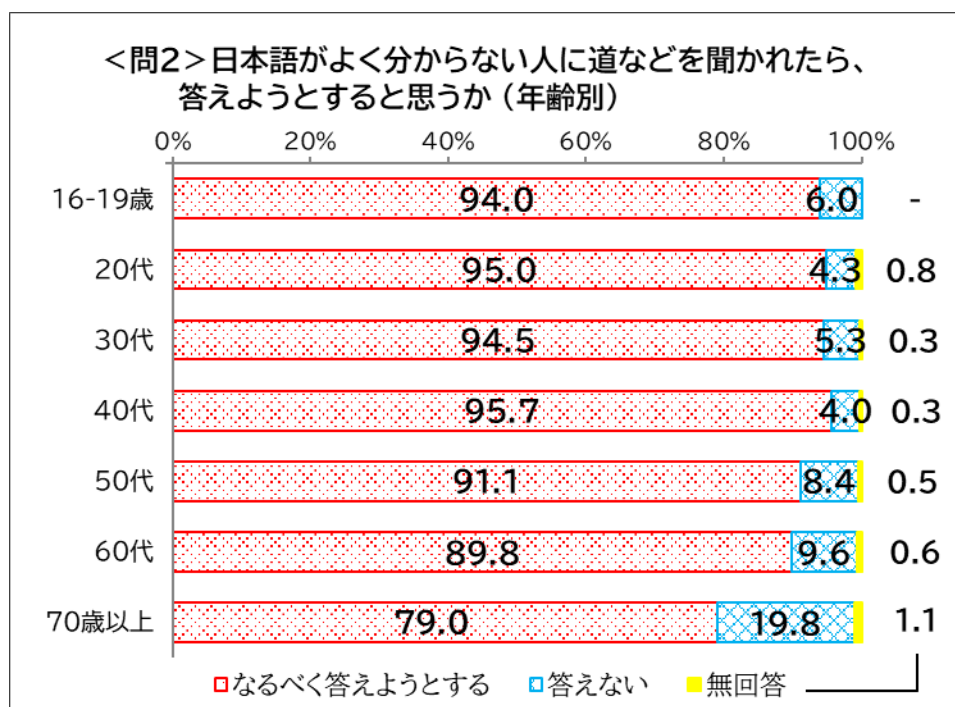
結果は、次のグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。）。

「なるべく答えようとする」を選択した人の割合が89.0%となっている。一方、「答えない」は10.3%となっている。



〔問2：年齢別の結果〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。



<問2付問> どのように答えようと思うか (\* p.10)

— 「身振り手振りを交えて答える」が8割台と最も高い —

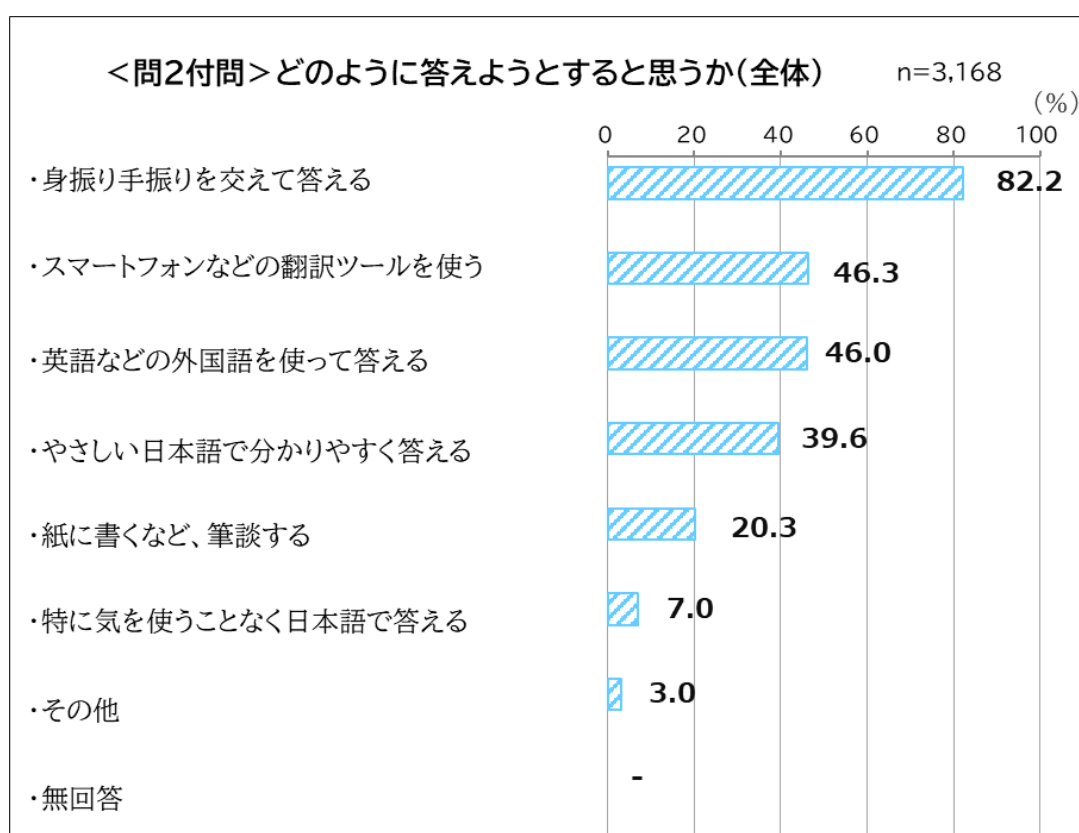
〔 問2付問：質問 〕

(問2で「なるべく答えようとする」と答えた人(全体の89.0%)に対して)  
あなた自身はどのように答えようと思いますか。(幾つでも回答)

〔 問2付問：全体の結果 〕

結果は次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

「身振り手振りを交えて答える」を選択した人の割合が他に比べて高く82.2%となっている。次いで「スマートフォンなどの翻訳ツールを使う」(46.3%)、「英語などの外国語を使って答える」(46.0%)、「やさしい日本語で分かりやすく答える」(39.6%)が4割弱から4割台となっている。



〔 問2付問：年齢別の結果 〕

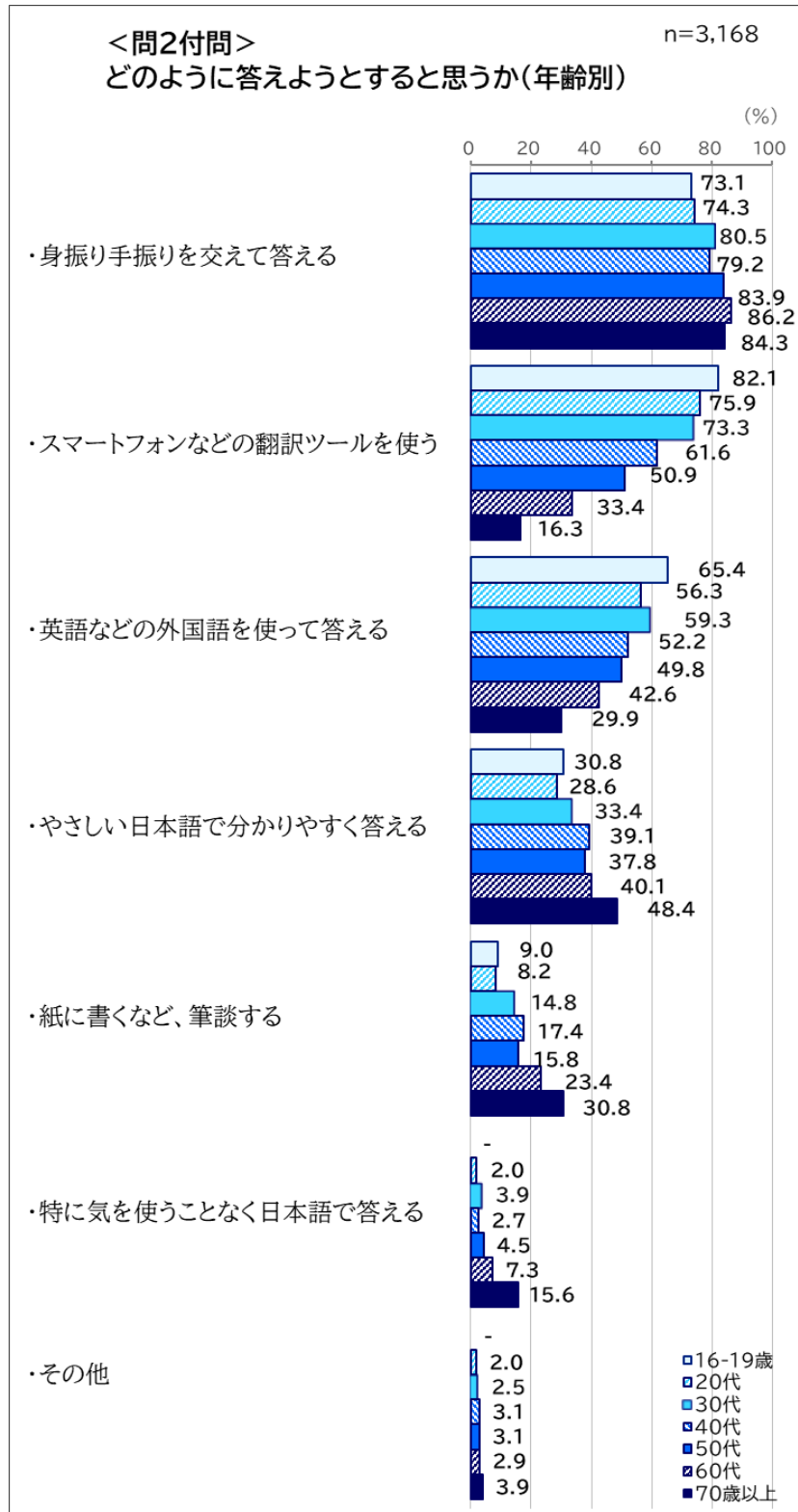
年齢別に見ると、次のグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。）。

「身振り手振りを交えて答える」は、60代で他の年齢層より高く86.2%となっている。

「スマートフォンなどの翻訳ツールを使う」「英語などの外国語を使って答える」は、年齢が低いほど割合が高くなる傾向がある。

一方、「紙に書くなど、筆談する」は、年齢が高いほど割合が高くなる傾向がある。

「やさしい日本語で分かりやすく答える」は、70歳以上で他の年齢層より高く48.4%となっている。



### <問3> 英語の国際語化についての考え (\* p.14)

— 「世界の人々のコミュニケーションのために、英語が共通の言語として使われるのは良いことだと思う」が5割台と最も高い —

#### 〔問3：質問〕

国際化の進む現代において、英語が国際的なコミュニケーションのための言葉になっていく傾向があるようですが、このことについてあなたはどのように考えますか。この中からあなたの考えに最も近いもの一つを選んでください。（一つ回答）

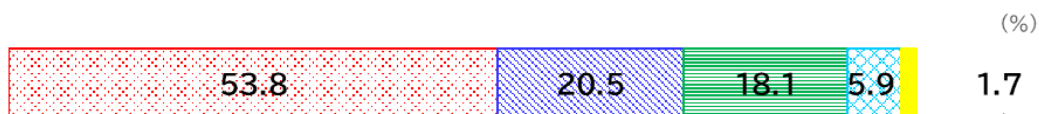
#### 〔問3：全体の結果〕

結果は、次のグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。）。

「世界の人々のコミュニケーションのために、英語が共通の言語として使われるのは良いことだと思う」を選択した人の割合が最も高く 53.8%となっている。

次いで「世界の人々のコミュニケーションのための言語として、英語が使われることは良いとは思わないが、仕方がない」が 20.5%、「世界の人々のコミュニケーションのための言語として、英語と並んで日本語などほかの言語ももっと使われるようにすべきだと思う」が 18.1%、「世界の人々のコミュニケーションのための言語として、日本語など英語以外の言語がもっと使われるようにすべきだと思う」が 5.9%となっている。

#### <問3> 英語の国際語化についての考え(全体)

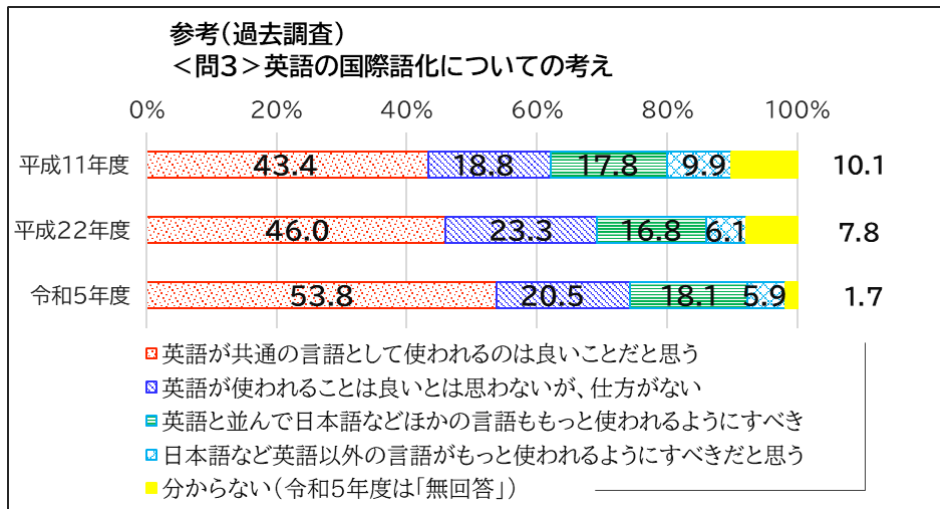


- 世界の人々のコミュニケーションのために、英語が共通の言語として使われるのは良いことだと思う
- 世界の人々のコミュニケーションのための言語として、英語が使われることは良いとは思わないが、仕方がない
- 英語と並んで日本語などほかの言語ももっと使われるようにすべきだと思う
- 世界の人々のコミュニケーションのための言語として、日本語など英語以外の言語がもっと使われるようにすべきだと思う
- 無回答

〔 問3：（参考）過去の調査結果 〕

調査方法が変わったため、令和元（2019）年度以前の調査結果については、今回（令和5年度）の調査結果との比較に注意が必要だが、過去の調査結果（平成11、22年度）を参考値として下のグラフに示す。

過去の調査結果においては、「世界の人々のコミュニケーションのために、英語が共通の言語として使われるのは良いことだと思う」、「世界の人々のコミュニケーションのための言語として、英語が使われることは良いとは思わないが、仕方がない」の割合がやや増加傾向にあった。



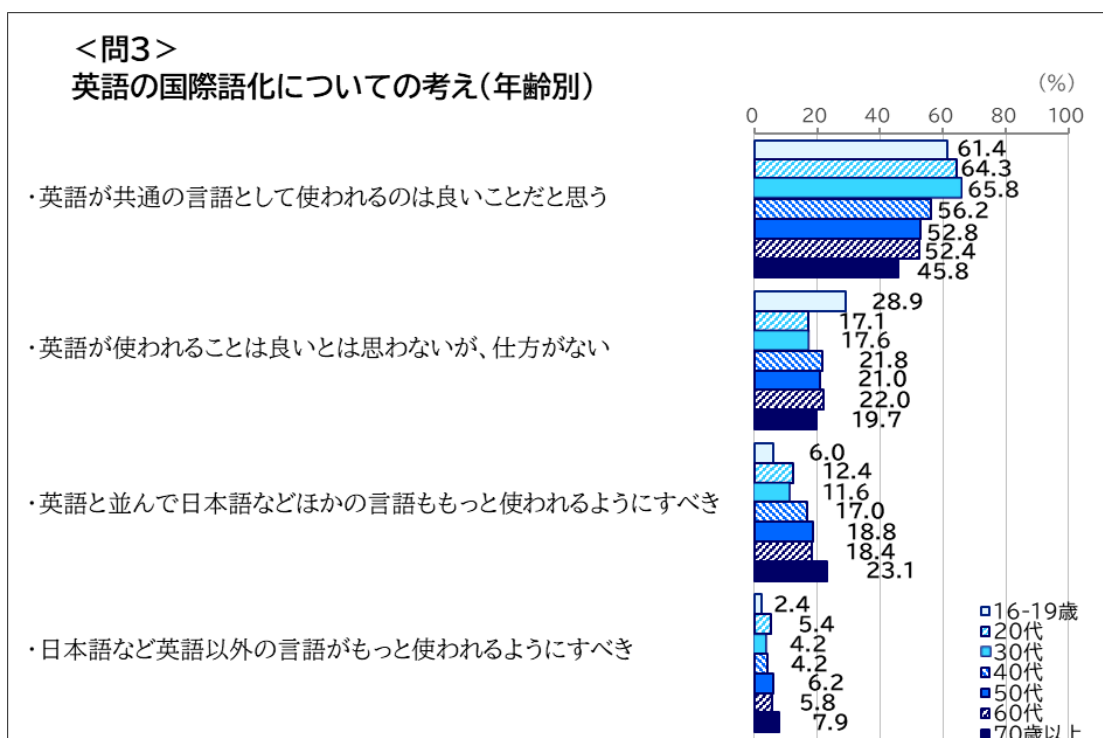
〔 問3：年齢別の結果 〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「世界の人々のコミュニケーションのために、英語が共通の言語として使われるのは良いことだと思う」は、20～30代で他の年齢層より高く6割台半ばとなっている。

「世界の人々のコミュニケーションのための言語として、英語が使われることは良いとは思わないが、仕方がない」は、16～19歳で他の年齢層より高く28.9%となっている。

「世界の人々のコミュニケーションのための言語として、英語と並んで日本語などほかの言語ももっと使われるようにすべきだと思う」は、年齢が高いほど割合が高くなる傾向があり、70歳以上で23.1%となっている。



<問4> 日本語の特徴で魅力を感じるところ (\* p.17)

— 「漢字や平仮名、片仮名などの様々な文字」が6割台と最も高い —

〔問4：質問〕

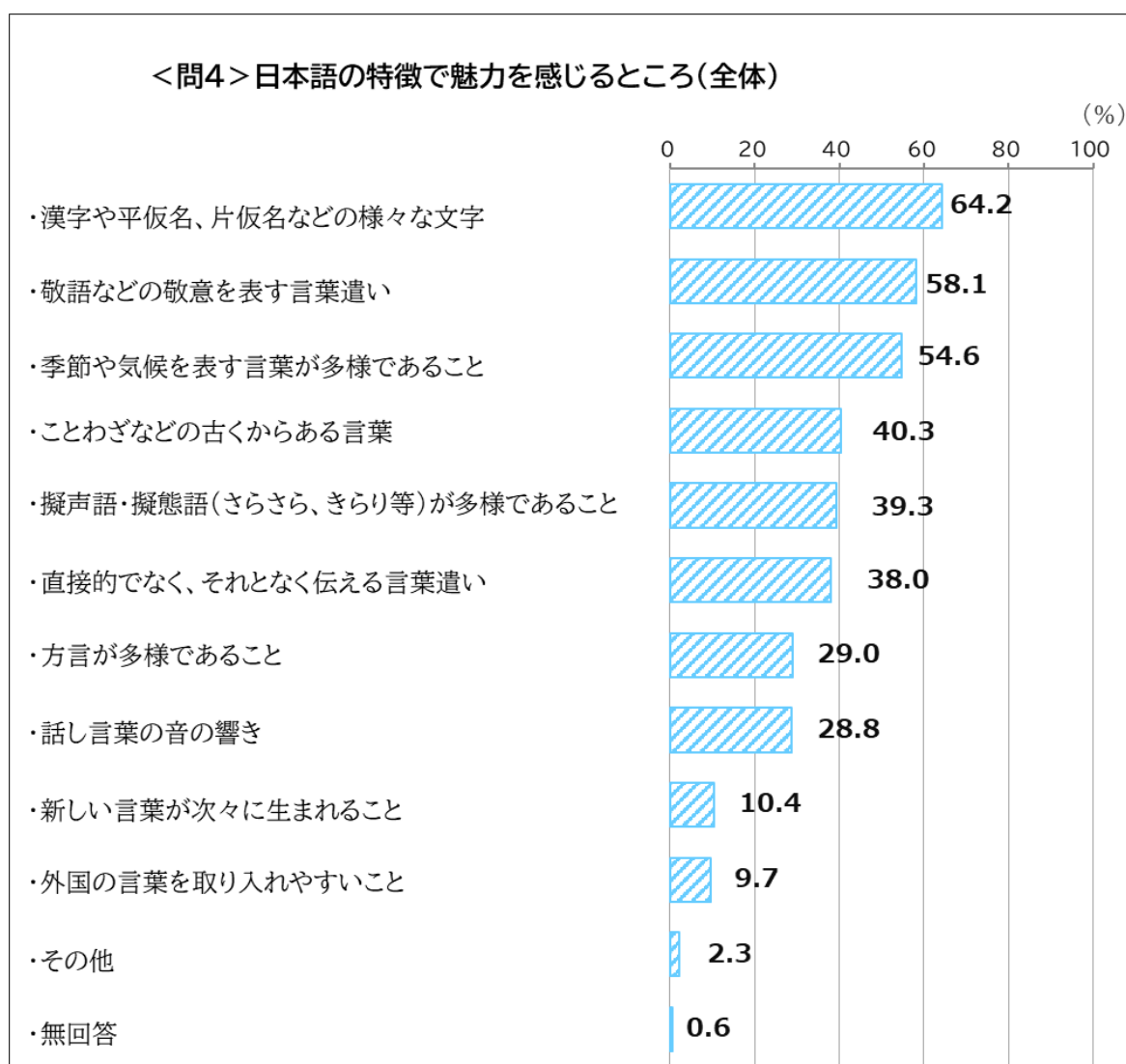
あなたは、日本語の特徴と言われることについて、どのようなところに魅力を感じますか。あなたのお考えに近いものをこの中から幾つでも選んでください。（幾つでも回答）

〔問4：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。）。

「漢字や平仮名、片仮名などの様々な文字」が最も高く64.2%となっている。次いで「敬語などの敬意を表す言葉遣い」(58.1%)、「季節や気候を表す言葉が多様であること」(54.6%)が5割台となっている。

以下、「ことわざなどの古くからある言葉」(40.3%)、「擬声語・擬態語（さらさら、きらり等）が多様であること」(39.3%)、「直接的でなく、それとなく伝える言葉遣い」(38.0%)が約4割、「方言が多様であること」(29.0%)、「話し言葉の音の響き」(28.8%)が約3割、「新しい言葉が次々に生まれること」(10.4%)、「外国の言葉を取り入れやすいこと」(9.7%)が約1割となっている。



〔 問4：年齢別の結果 〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

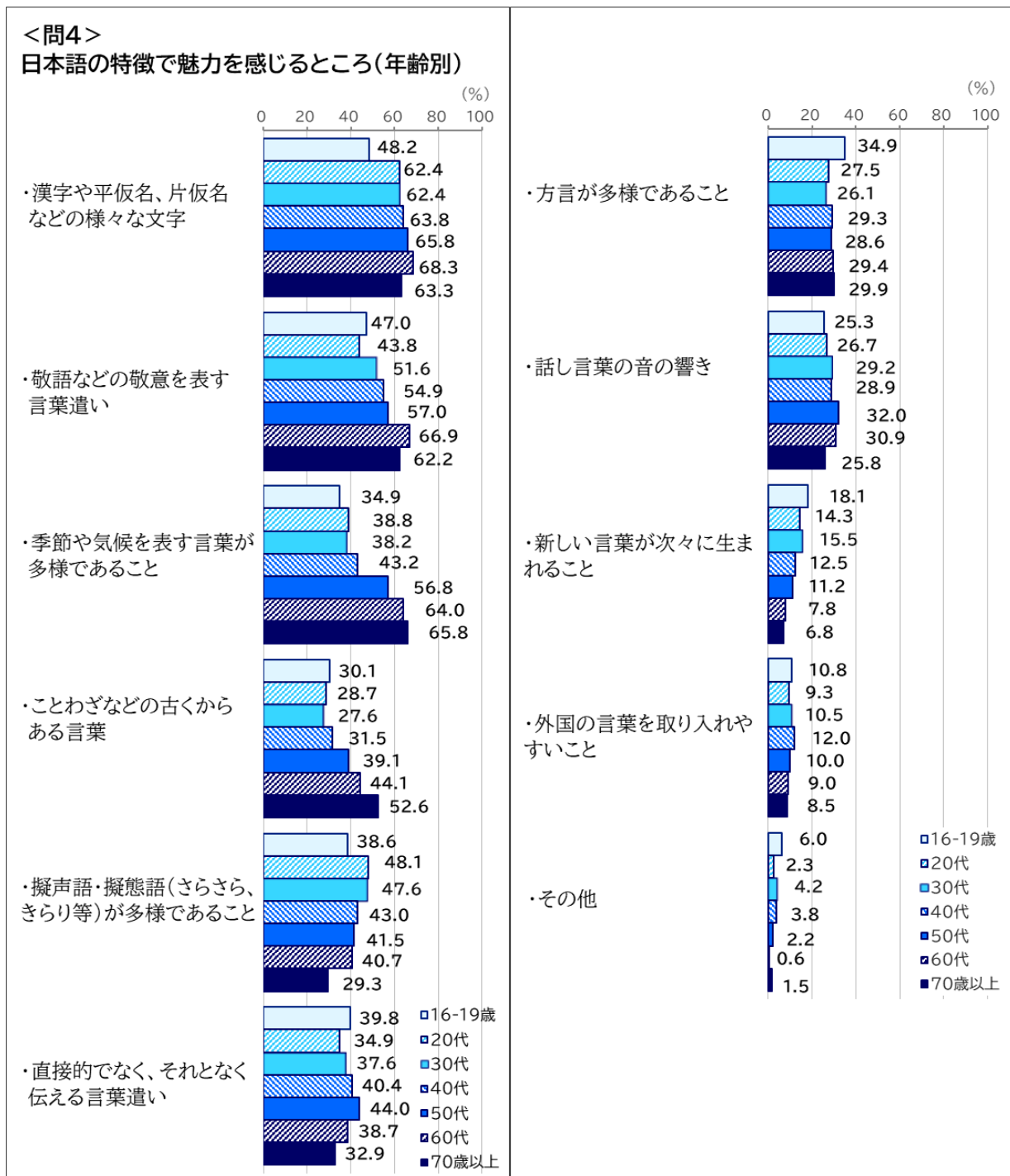
「漢字や平仮名、片仮名などの様々な文字」は、16～19歳で他の年齢層より低く、48.2%となっている。

「敬語などの敬意を表す言葉遣い」「季節や気候を表す言葉が多様であること」「ことわざなどの古くからある言葉」は、60代以上でそれぞれ他の年齢層より高くなっている。

「擬声語・擬態語（さらさら、きらり等）が多様であること」は、20～30代で他の年齢層より高く4割台後半となっている。

「直接的でなく、それとなく伝える言葉遣い」は、50代で他の年齢層より高く44.0%となっている。

「新しい言葉が次々に生まれること」は、年齢が低いほど割合が高くなる傾向があり、16～19歳で18.1%となっている。



## Ⅱ ローマ字・外来語表記に関する意識

\* 質問の趣旨が伝わるよう、調査対象者に送った調査票には、次のような注意書きが記載されている。

**次の問5は、「日本語をローマ字で書き表す」ことについてお尋ねします。**

ここで尋ねる「日本語をローマ字で書き表す」とは、「田中」を「Tanaka」、「本」を「hon」、「ごめん」を「gomen」とするように、日本語を日本語のままローマ字で書くことです。

次のような書き方は、ここで尋ねる「日本語をローマ字で書き表す」ことではありません。

- × 外国語で書く（「本」という意味で「book」、「ごめん」という意味で「sorry」とするように、英語などの外国語で書くこと）
- × ローマ字入力（パソコン等で「伊藤(いとう)」と表示させるのに「ITOU」「itou」、「秋(あき)」と表示させるのに「AKI」「aki」というように、キーボードなどでローマ字入力すること）

**<問5> どのローマ字表記が読み書きしやすいか** (\* p.20)

— 伸ばす音は符号を付けた書き方の割合が高くなっている —

〔問5：質問〕

次の(1)～(8)をローマ字で書き表す場合、ここに挙げた中ではどの書き表し方が読み書きしやすいと思いますか。(一つずつ回答)

- |                  |         |         |         |        |         |        |
|------------------|---------|---------|---------|--------|---------|--------|
| (1) 「交番 (こうばん)」  | kôban   | kōban   | kooban  | kouban | kohban  | koban  |
| (2) 「大江戸 (おおえど)」 | ôedo    | ōedo    | Ooedo   | Ouedo  | Ohedo   | Oedo   |
| (3) 「牛丼 (ぎゅうどん)」 | gyûdon  | gyūdon  | gyuudon |        | gyuhdon | gyudon |
| (4) 「母さん (かあさん)」 | kâsan   | kāsan   | kaasan  |        | kahsan  | kasan  |
| (5) 「姉さん (ねえさん)」 | nêsan   | nēsan   | neesan  |        | nehсан  | nesan  |
| (6) 「ぼっちゃん」      | bottyan | bocchan | botchan |        |         |        |
| (7) 「あんまん」       | anman   |         | amman   |        |         |        |
| (8) 「乾杯 (かんぱい)」  | kanpai  |         | kampai  |        |         |        |

※ 「ローマ字のつづり方」(昭和29年内閣告示)では、長音(伸ばす音)は母音字の上に「^」をつけて表す(大文字の場合は、母音字を並べてもよい。)とされ、促音(つまる音)は最初の子音字を重ねて表すとされ、撥音(はねる音「ン」)は全てnと書くとされている。



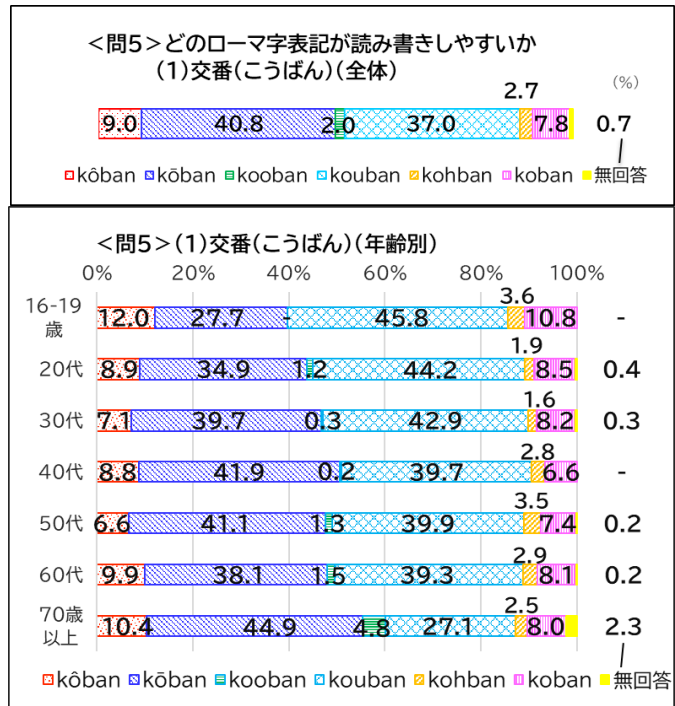
〔 問5：(1)～(8)の結果・年齢別の結果 〕

(1)～(8)についての結果は、それぞれ以下のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

(1) 「交番 (こうばん)」

「kōban」と答えた人が40.8%と最も高く、次いで「kouban」と答えた人が37.0%となっている。以下、「kōban」(9.0%)、「kōban」(7.8%)、「kohban」(2.7%)、「kooban」(2.0%)となっている。

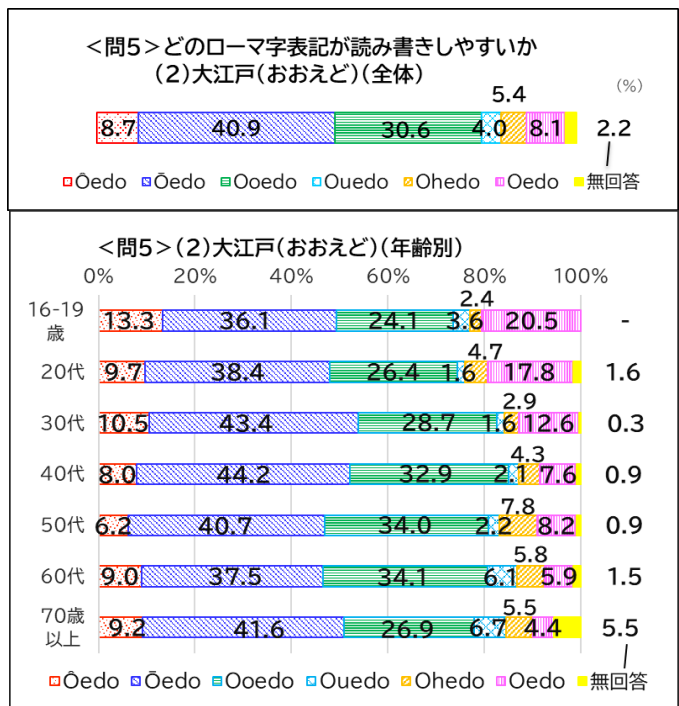
年齢別に見ると、「kōban」と答えた人は、30代から70歳以上では4割弱から4割台となっている。40代から60代では「kōban」と「kouban」の割合が同じくらいであり、30代以下では「kouban」が「kōban」より高くなっている。



(2) 「大江戸 (おおえど)」

「Oedo」と答えた人が40.9%と最も高く、次いで「Oedo」と答えた人が30.6%となっている。以下、「Ōedo」(8.7%)、「Oedo」(8.1%)、「Ohedo」(5.4%)、「Ouedo」(4.0%)となっている。

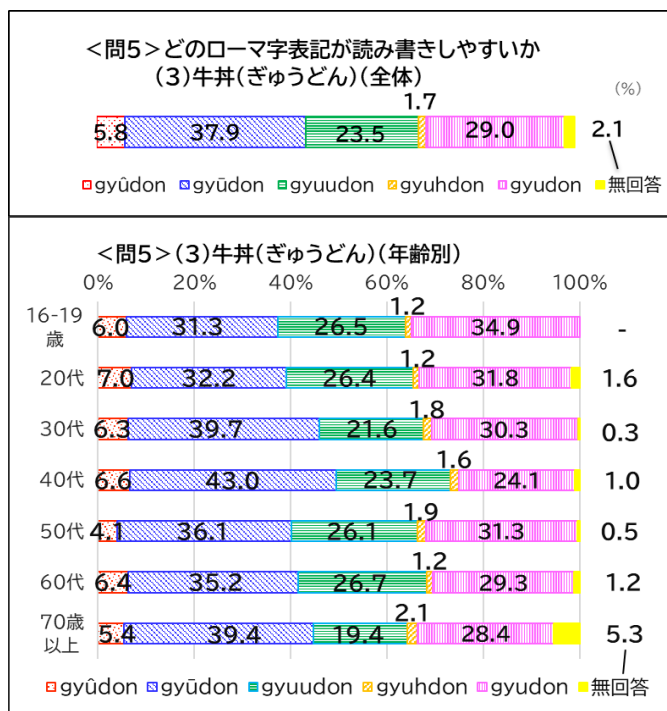
年齢別に見ると、「Ōedo」と答えた人は、各年齢層で最も割合が高く、3割台後半から4割台となっている。「Oedo」は、20代から70歳以上で2割台後半から3割台となっている。「Oedo」は、年齢が低いほど割合が高くなる傾向があり、16～19歳で20.5%となっている。



(3) 「牛丼 (ぎゅうどん)」

「gyūdon」と答えた人が37.9%と最も高く、次いで「gyudon」と答えた人が29.0%、「gyuudon」と答えた人が23.5%となっている。以下、「gyūdon」(5.8%)、「gyuhdon」(1.7%)となっている。

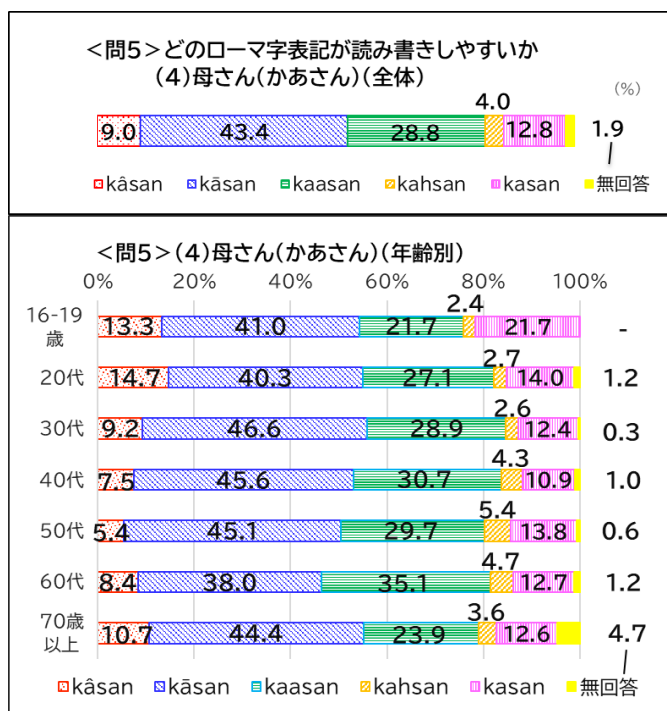
年齢別に見ると、「gyūdon」と答えた人は、16～19歳を除く全ての年齢層で最も割合が高く、3～4割台となっている。



(4) 「母さん (かあさん)」

「kāsan」と答えた人が43.4%と最も高く、次いで「kaasan」と答えた人が28.8%となっている。以下、「kasan」(12.8%)、「kāsan」(9.0%)、「khasan」(4.0%)となっている。

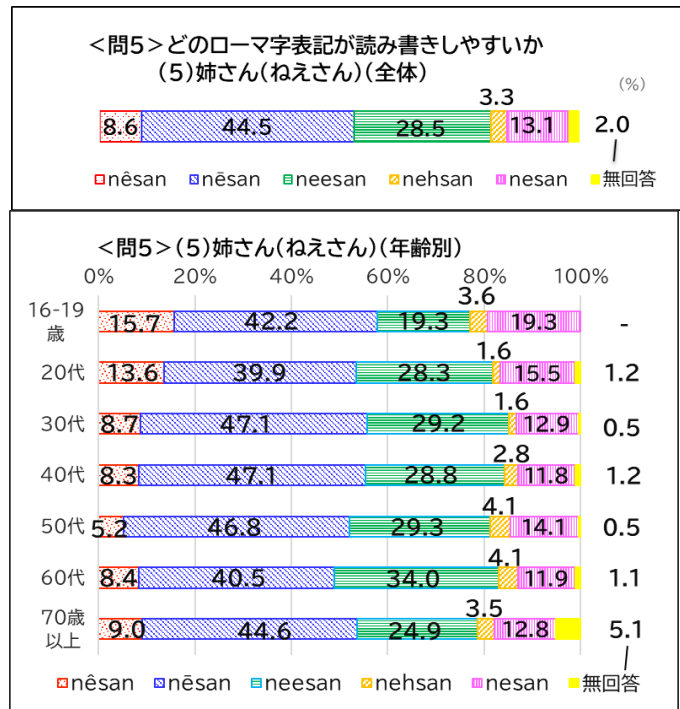
年齢別に見ると、「kāsan」と答えた人は、全ての年齢層で最も割合が高く、4割弱から4割台となっている。



(5) 「姉さん(ねえさん)」

「nēsan」と答えた人が44.5%と最も高く、次いで「neesan」と答えた人が28.5%となっている。以下、「nesan」(13.1%)、「nēsan」(8.6%)、「nehsan」(3.3%)となっている。

年齢別に見ると、「nēsan」と答えた人は、全ての年齢層で最も割合が高く、4割弱から4割台となっている。

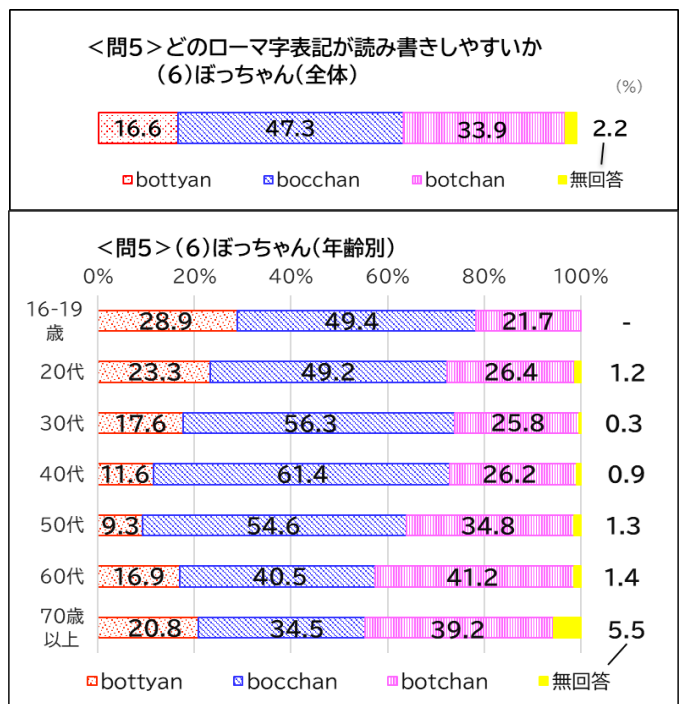


(6) 「ぼっちゃん」

「bocchan」と答えた人が47.3%と最も高く、以下、「botchan」(33.9%)、「bottyan」(16.6%)となっている。

年齢別に見ると、「bocchan」と答えた人は、30~50代で他の年齢層より高く5~6割台となっている。「botchan」は、60代以上で他の年齢層より高く約4割となっている。「bottyan」は、20代以下と70歳以上で他の年齢層より高く2割台となっている。

※「botchan」は、ヘボン式で用いられることがある。

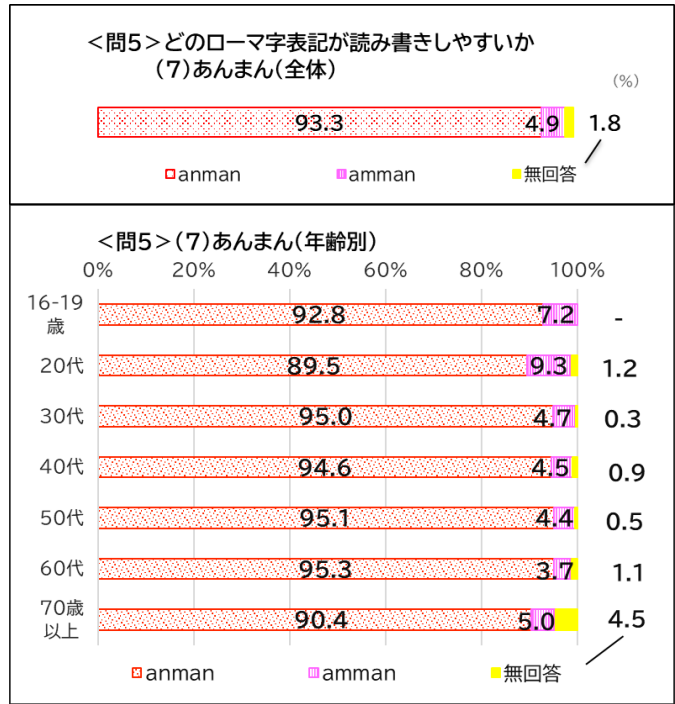


(7) 「あんまん」

「anman」と答えた人が93.3%、「amman」と答えた人が4.9%となっている。

年齢別に見ると、「anman」と答えた人は、全ての年齢層で9割弱から9割台となっている。

※「amman」は、ヘボン式で用いられることがある。

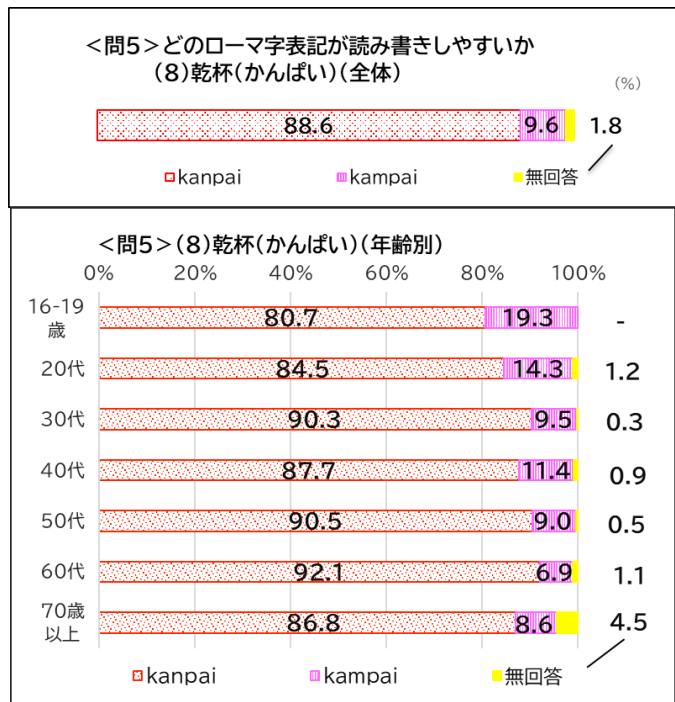


(8) 「乾杯 (かんぱい)」

「kanpai」と答えた人が88.6%、「kampai」と答えた人が9.6%となっている。

年齢別に見ると、「kanpai」と答えた人は、全ての年齢層で8～9割台となっている。「kampai」は、20代以下で他の年齢層より高く1割台半ばから2割弱となっている。

※「kampai」は、ヘボン式で用いられることがある。



<問6> 外来語の表記 (\* p.27)

— 「エレベーター」など、語末の長音「ー」を表記している方の割合が高い —

〔問6：質問〕

あなたはふだん、ここに挙げた(1)～(10)の外来語を書く場合、(ア)と(イ)のどちらで表記しますか。どちらの場合もある人は表記することの多い方を答えてください。(一つずつ回答)

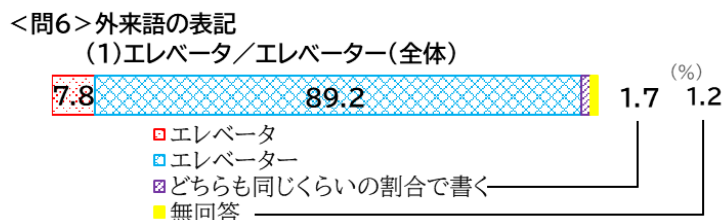
(ア)	(イ)
(1) エレベータ	／ エレベーター
(2) コンピュータ	／ コンピューター
(3) バイオリン	／ ヴァイオリン
(4) ファーストフード	／ ファストフード
(5) インキ	／ インク
(6) ユニフォーム	／ ユニホーム
(7) キャンデー	／ キャンディー
(8) ダイヤモンド	／ ダイヤモンド
(9) ロマンチック	／ ロマンティック
(10) メインイベント	／ メーンイベント

〔問6：全体の結果・年齢別の結果〕

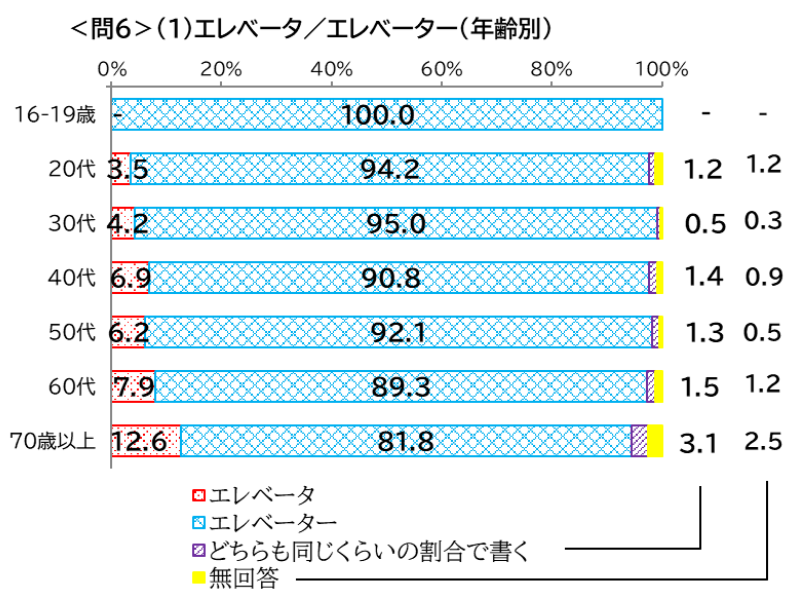
結果はそれぞれ以下のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

(1) エレベータ／エレベーター

「エレベーター」と答えた人が89.2%、「エレベータ」と答えた人が7.8%となっている。

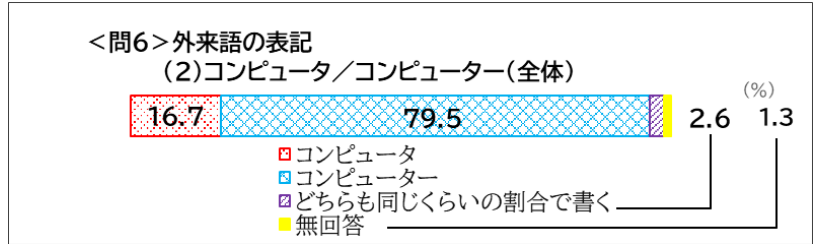


年齢別に見ると、「エレベーター」は、年齢が低いほど割合が高くなる傾向にある。

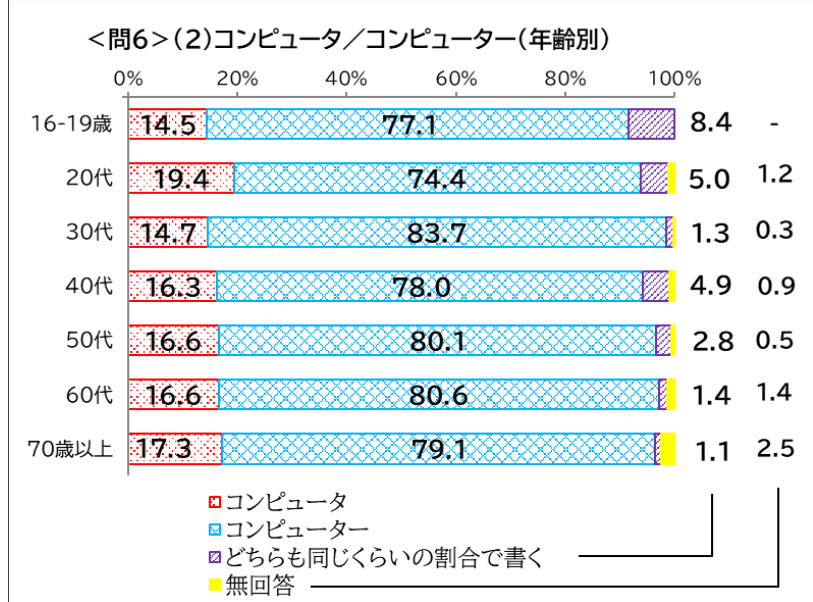


(2) コンピュータ/コンピューター

「コンピューター」と答えた人が79.5%、「コンピュータ」と答えた人が16.7%となっている。

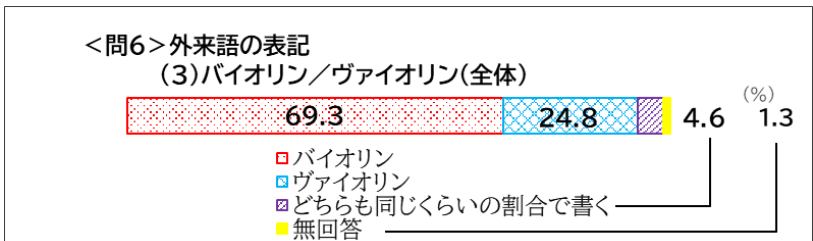


年齢別に見ると、「コンピューター」と答えた人は、全ての年齢層で7~8割台となっている。

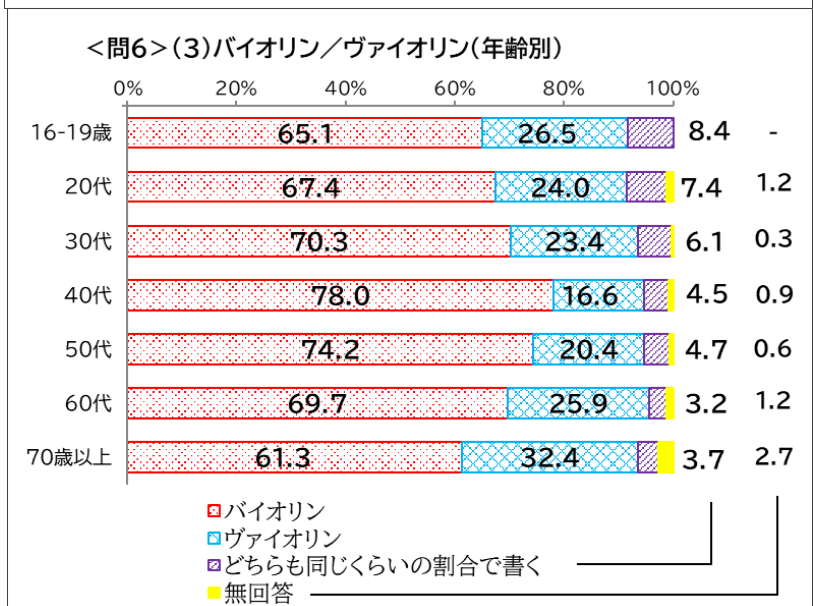


(3) バイオリン/ヴァイオリン

「バイオリン」と答えた人が69.3%、「ヴァイオリン」と答えた人が24.8%となっている。

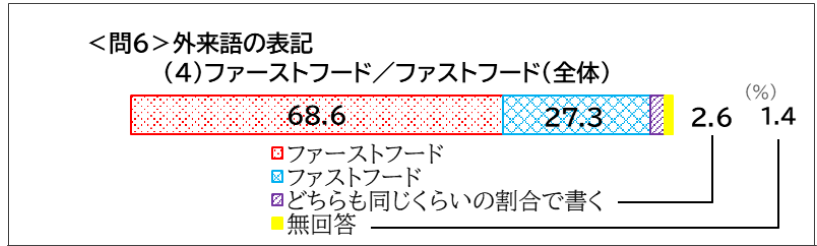


年齢別に見ると、「バイオリン」と答えた人は、30~60代で7割弱から7割台となっている。「ヴァイオリン」は、70歳以上で他の年齢層より高く32.4%となっている。

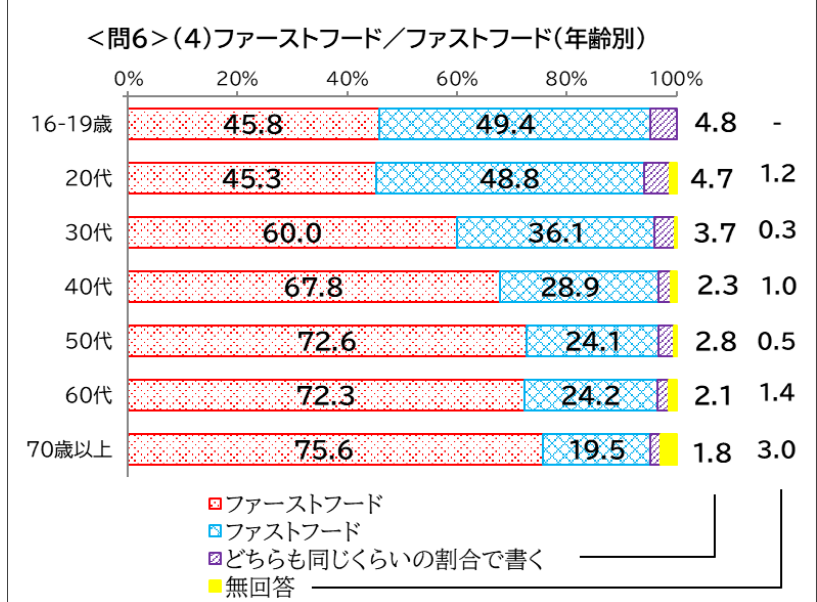


(4) ファーストフード/ファストフード

「ファーストフード」と答えた人が68.6%、「ファストフード」と答えた人が27.3%となっている。

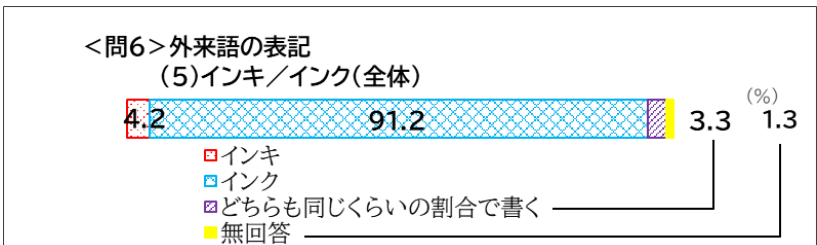


年齢別に見ると、「ファーストフード」と答えた人は、年齢が高いほど割合が高くなる傾向があり、50代以上で7割台となっている。一方、「ファストフード」は、年齢が低いほど割合が高くなる傾向があり、20代以下で5割弱となっている。

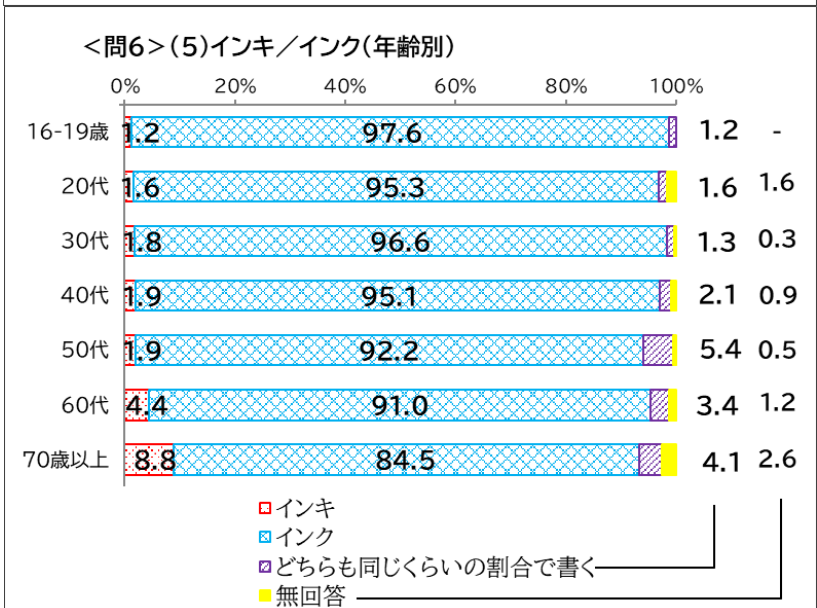


(5) インキ/インク

「インク」と答えた人が91.2%、「インキ」と答えた人が4.2%となっている。



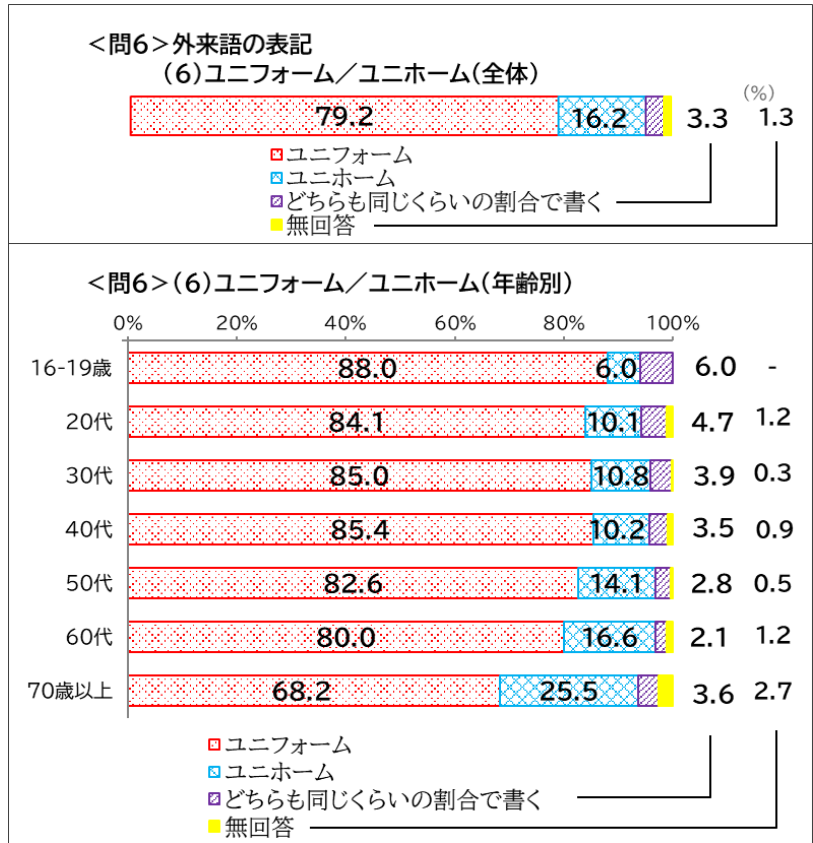
年齢別に見ると、「インク」と答えた人は、40代以下で他の年齢層より高く9割台後半となっている。「インキ」は、70歳以上で他の年齢層より高く8.8%となっている。



(6) ユニフォーム／ユニホーム

「ユニフォーム」と答えた人が79.2%、「ユニホーム」と答えた人が16.2%となっている。

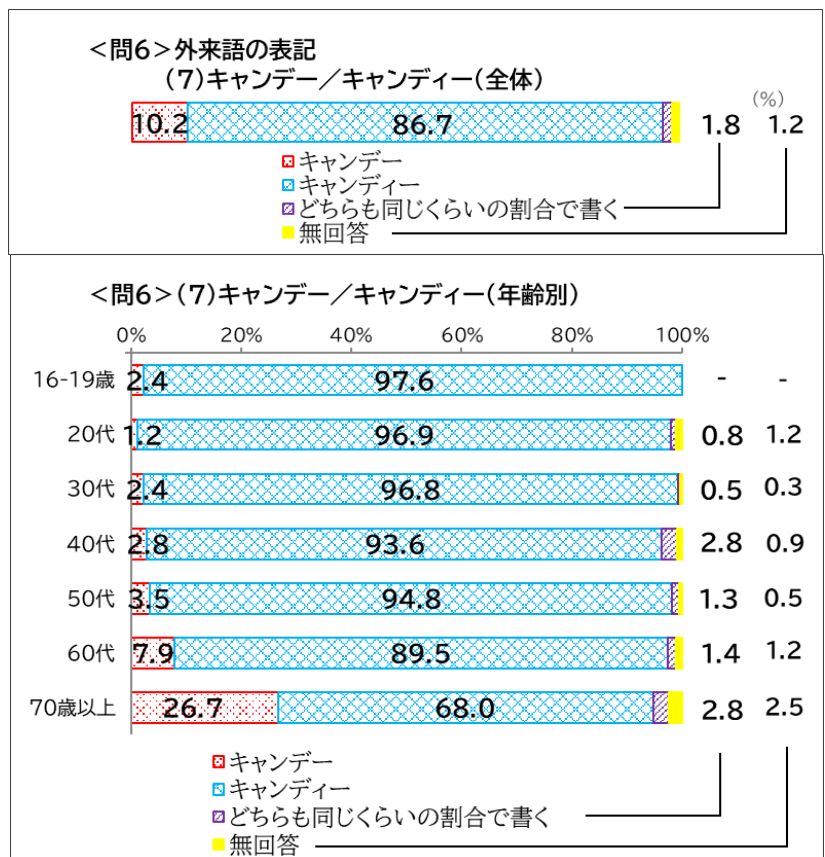
年齢別に見ると、「ユニフォーム」と答えた人は、70歳以上（68.2%）を除く全ての年齢層で8割台となっている。「ユニホーム」は、年齢が高いほど割合が高くなる傾向があり、70歳以上で25.5%となっている。



(7) キャンデー／キャンディー

「キャンディー」と答えた人が86.7%、「キャンデー」と答えた人が10.2%となっている。

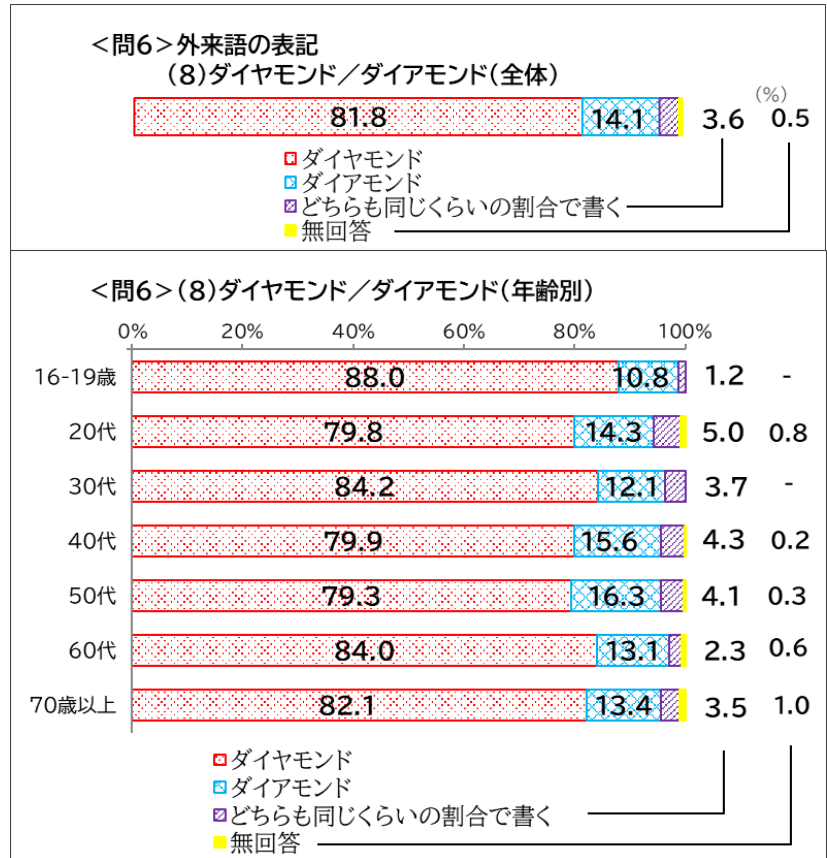
年齢別に見ると、「キャンディー」と答えた人は、70歳以上（68.0%）を除く全ての年齢層で8～9割台となっている。「キャンデー」は、70歳以上で他の年齢層より高く26.7%となっている。





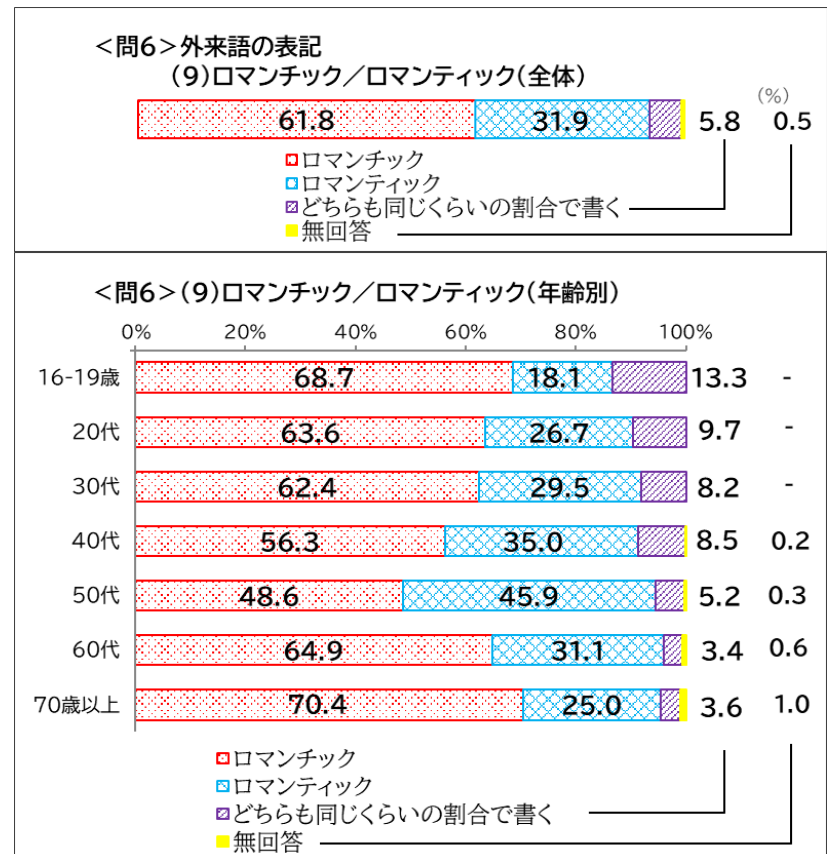
(8) ダイヤモンド／ダイアモンド  
「ダイヤモンド」と答えた人が81.8%、「ダイアモンド」と答えた人が14.1%となっている。

年齢別に見ると、「ダイヤモンド」と答えた人は、全ての年齢層で7～8割台となっている。



(9) ロマンチック／ロマンティック  
「ロマンチック」と答えた人が61.8%、「ロマンティック」と答えた人が31.9%となっている。

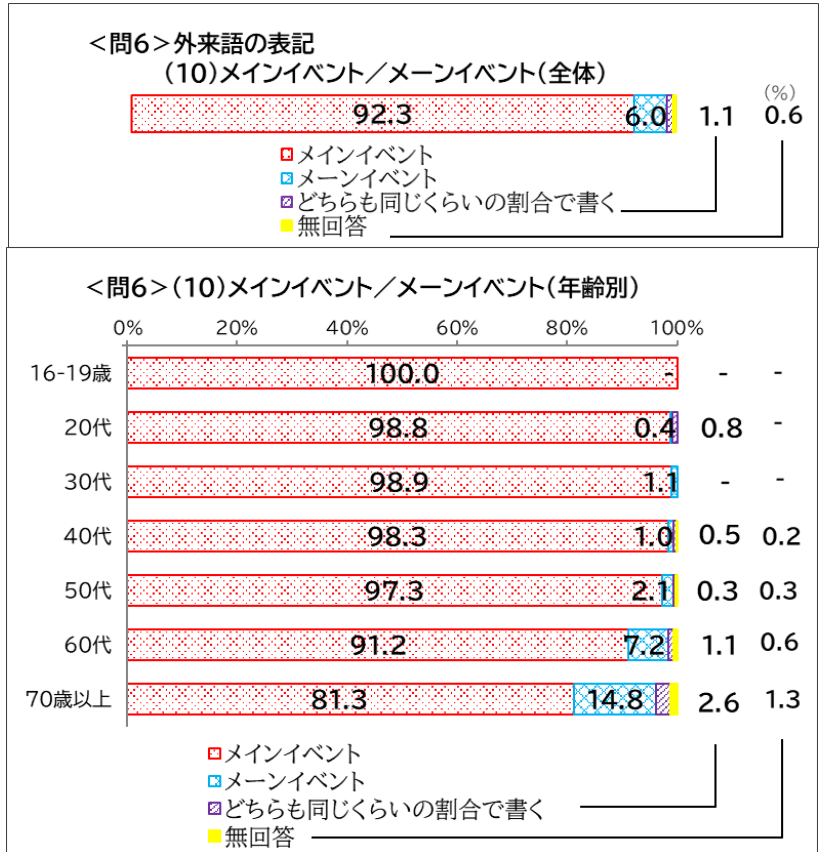
年齢別に見ると、「ロマンチック」は、70歳以上で他の年齢層より高く70.4%となっている。



(10) メインイベント／メインイベント

「メインイベント」と答えた人が92.3%、「メインイベント」と答えた人が6.0%となっている。

年齢別に見ると、「メインイベント」は、50代以下で9割台後半から10割となっている。「メインイベント」は、70歳以上で他の年齢層より高く14.8%となっている。



### Ⅲ 読書と文字・活字による情報に関する意識

\* 質問の趣旨が伝わるよう、調査対象者に送った調査票には、次のような注意書きが記載されている。

次の問7～問11は、読書についてお尋ねします。ここでいう本とは、電子書籍も含みますが、特に記載のない限り、雑誌や漫画は除きます。（記載のある問10、問11とその付問は、雑誌や漫画も含みます。）

電子書籍とは、電子ブックリーダー、スマートフォン、タブレット、携帯電話、パソコン等の情報機器のディスプレイで読む本です。

#### <問7> 1か月に読む本の冊数 (\* p.34)

— 「読まない」が6割台 —

##### 〔問7：質問〕

あなたは現在、1か月に大体何冊くらい本を読んでいますか。電子書籍を含みますが、雑誌や漫画は除きます。（一つ回答）

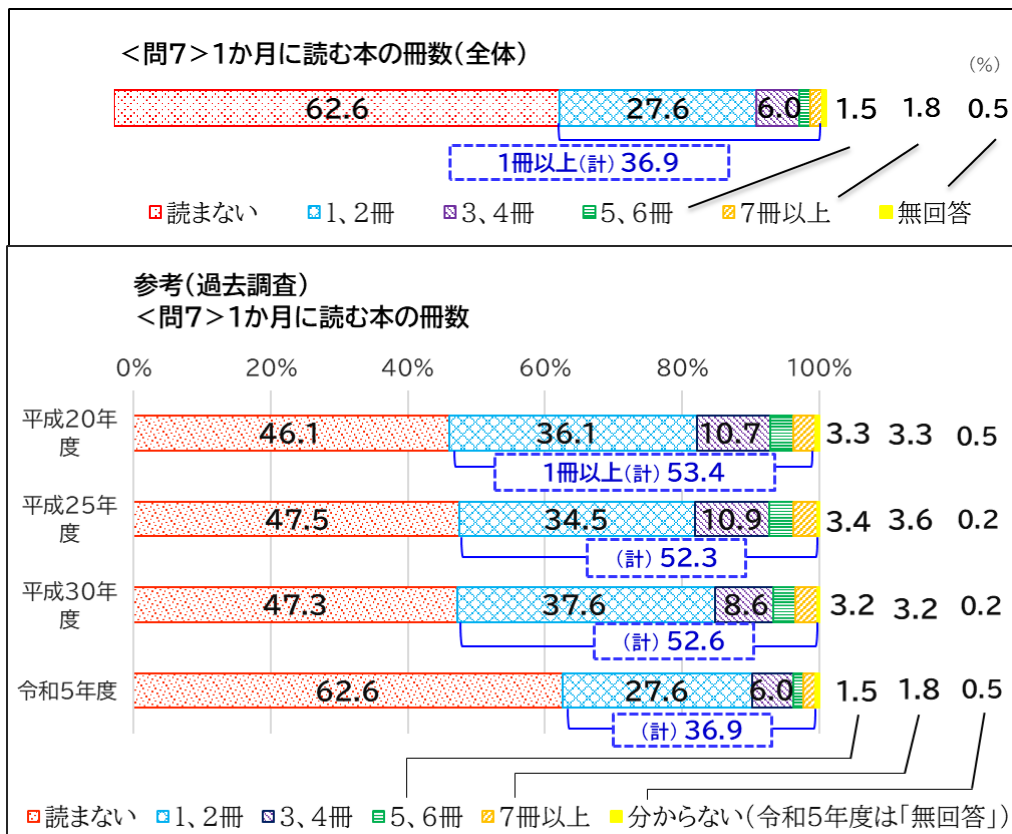
##### 〔問7：全体の結果、(参考)過去の調査結果〕

結果は次のグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。）。

「読まない」が62.6%、「1、2冊」が27.6%、「3、4冊」が6.0%、「5、6冊」が1.5%、「7冊以上」が1.8%となっており、1冊以上読むと答えた人の割合が合わせて36.9%となっている。

また、調査方法が変わったため、令和元（2019）年度以前の調査結果については、今回（令和5年度）の調査結果との比較に注意が必要だが、過去の調査結果（平成20、25、30年度）を参考値として下のグラフに示す。

過去の調査結果では「読まない」の割合が4割台後半であったが、今回は62.6%となっている。



\* 調査方法の変更のため、令和元（2019）年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

<問7付問1> 本以外の文字・活字による情報を読む機会 (\* p.36)

— 「ほぼ毎日ある」が7割半ば —

〔問7付問1：質問〕

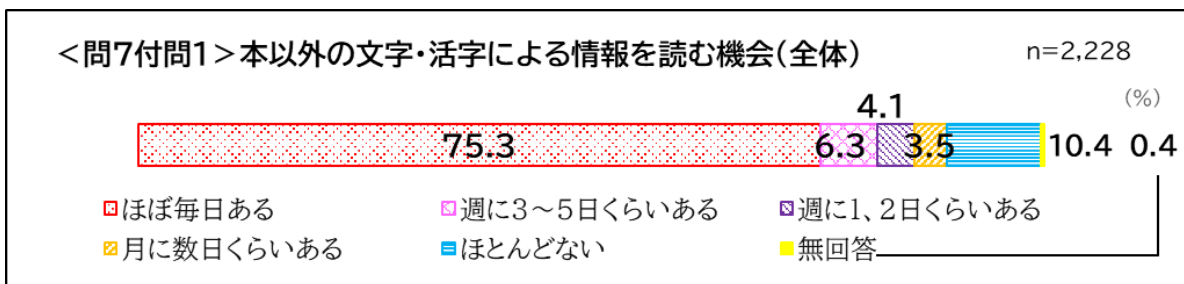
(問7で「読まない」と答えた人(全体の62.6%)に対して)

あなたは、本ではなく、それ以外の文字・活字による情報(SNS、インターネット上の記事などを含む。)を読むことが、どのくらいありますか。この中から最も近いものを一つ選んでください。(一つ回答)

〔問7付問1：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

「ほぼ毎日ある」が75.3%で最も高く、「週に3~5日くらいある」が6.3%、「週に1、2日くらいある」が4.1%、「月に数日くらいある」が3.5%となっている。また、「ほとんどない」は10.4%となっている。

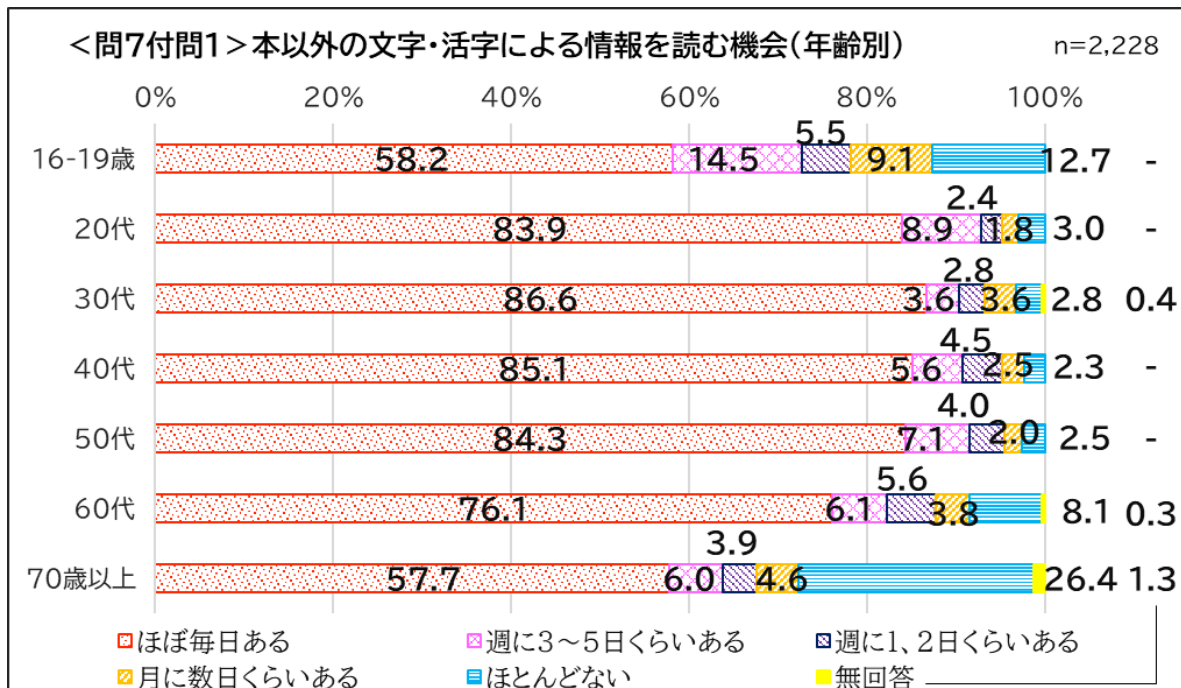


〔問7付問1：年齢別の結果〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「ほぼ毎日ある」は、20~50代で他の年齢層より高く8割台となっている。

「ほとんどない」は、70歳以上で他の年齢層より高く26.4%となっている。



## <問7付問2> 読む本の選び方 (\* p.38)

— 「書店で実際に手に取って選ぶ」が5割台後半と最も高いが、減少傾向にある —

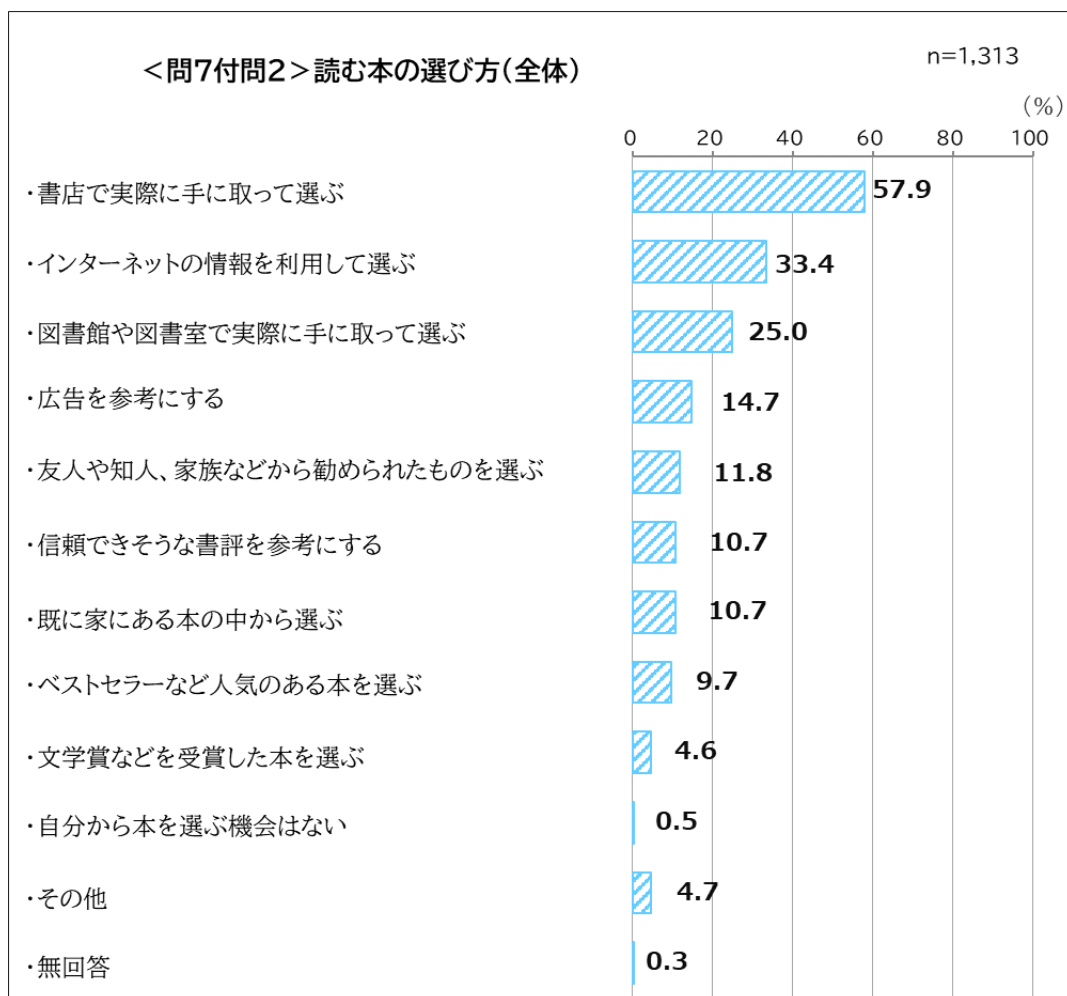
### 〔問7付問2：質問〕

(問7で「1か月に1冊以上読んでいる」と答えた人(全体の36.9%)に対して)  
あなたは、自分が読む本をどのように選んでいますか。(二つまで回答)

### 〔問7付問2：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

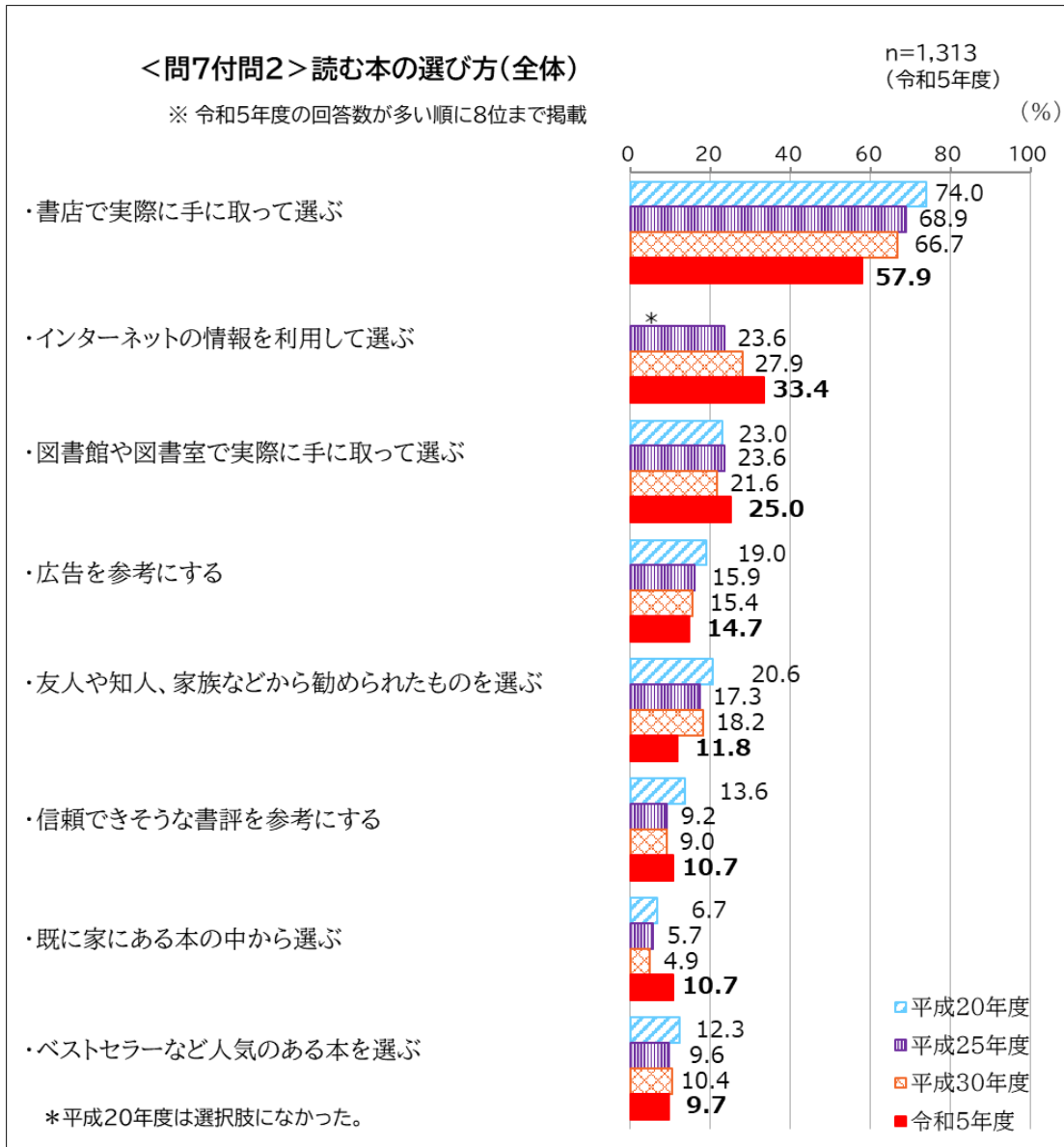
「書店で実際に手に取って選ぶ」が57.9%で最も高く、次いで「インターネットの情報を利用して選ぶ」が33.4%、「図書館や図書室で実際に手に取って選ぶ」が25.0%、「広告を参考にする」が14.7%となっている。



〔 問7付問2：（参考）過去の調査結果 〕

調査方法が変わったため、令和元（2019）年度以前の調査結果については、今回（令和5年度）の調査結果との比較に注意が必要だが、過去の調査結果（平成20、25、30年度）を参考値として下のグラフに示す。

過去の調査結果においては、「書店で実際に手に取って選ぶ」の割合が減少傾向にあり、「インターネットの情報を利用して選ぶ」が増加傾向にあった。



\* 調査方法の変更のため、令和元（2019）年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

## <問8> 読書量の変化 (\* p.41)

— 「読書量は減っている」が約7割 —

### 〔問8：質問〕

あなたの読書量は、以前に比べて減っていますか。それとも、増えていますか。 (一つ回答)

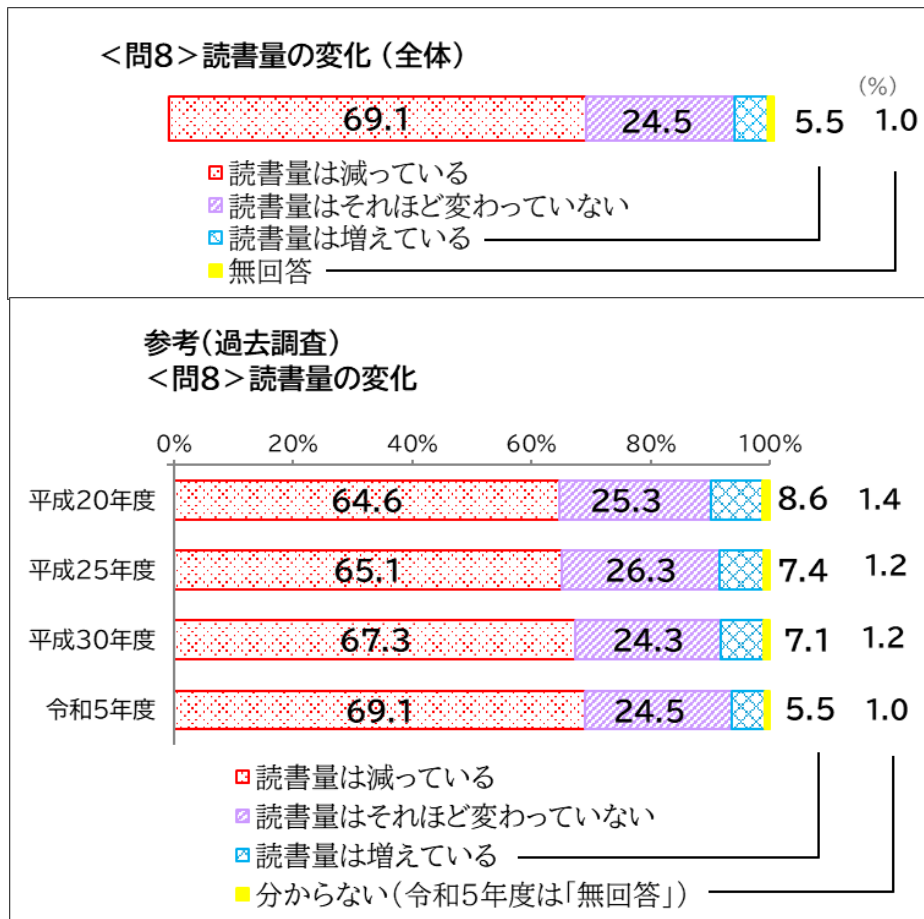
### 〔問8：全体の結果、(参考)過去の調査結果〕

結果は次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

「読書量は減っている」が69.1%、「読書量はそれほど変わっていない」が24.5%、「読書量は増えている」が5.5%となっている。

また、調査方法が変わったため、令和元(2019)年度以前の調査結果については、今回(令和5年度)の調査結果との比較に注意が必要だが、過去の調査結果(平成20、25、30年度)を参考値として下のグラフに示す。

過去の調査結果では、おおむね同じような傾向にあった。



\* 調査方法の変更のため、令和元(2019)年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

<問8付問1> 読書量が減っている理由 (\* p.43)

— 「情報機器で時間が取られる」が4割台と最も高い —

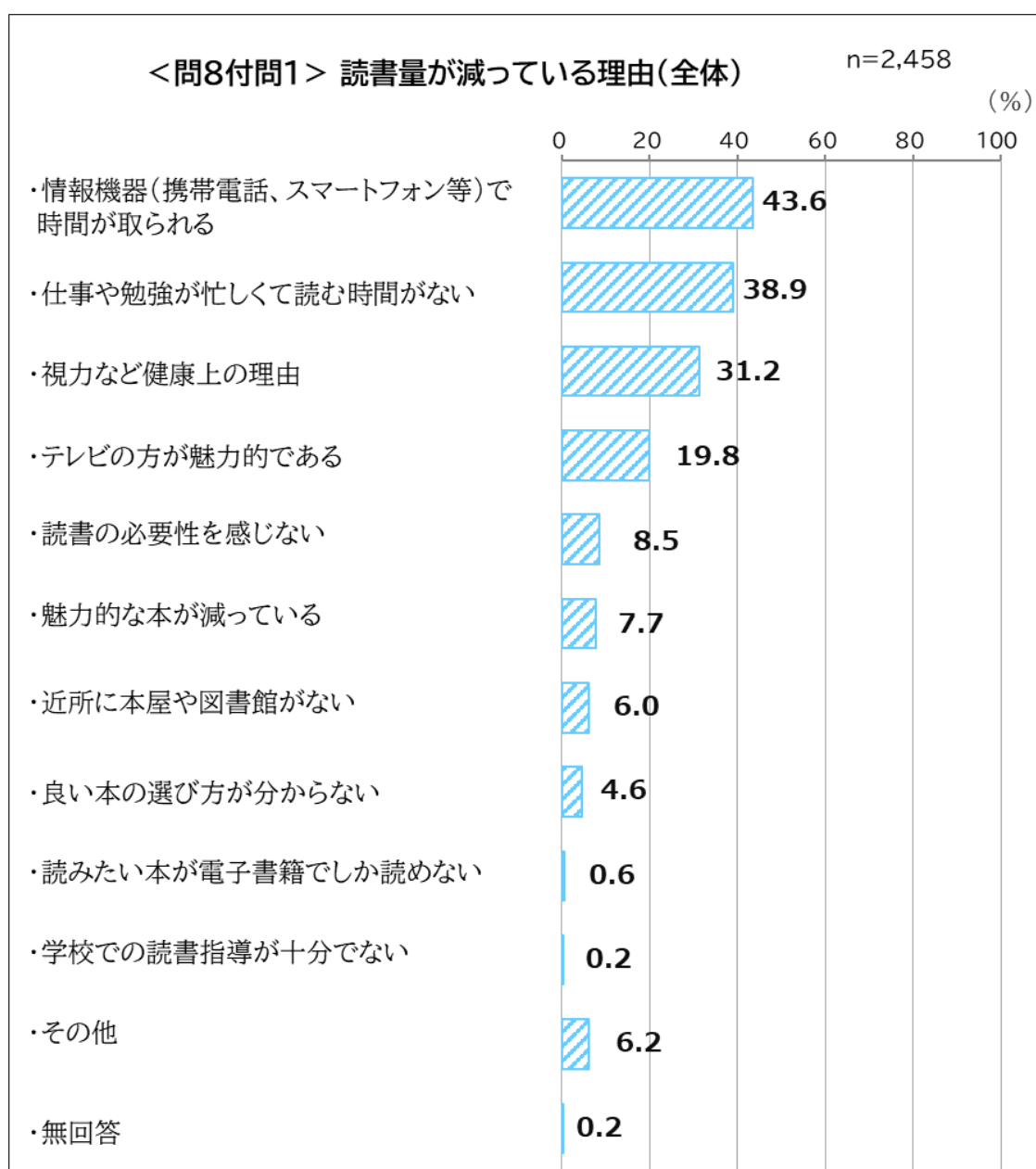
〔問8付問1：質問〕

(問8で「読書量は減っている」と答えた人(全体の69.1%)に対して)  
あなたの読書量が減っているのはなぜですか。(二つまで回答)

〔問8付問1：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

「情報機器(携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン、ゲーム機等)で時間が取られる」が43.6%で最も高く、次いで「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」が38.9%、「視力など健康上の理由」が31.2%となっている。以下、「テレビの方が魅力的である」(19.8%)となっている。





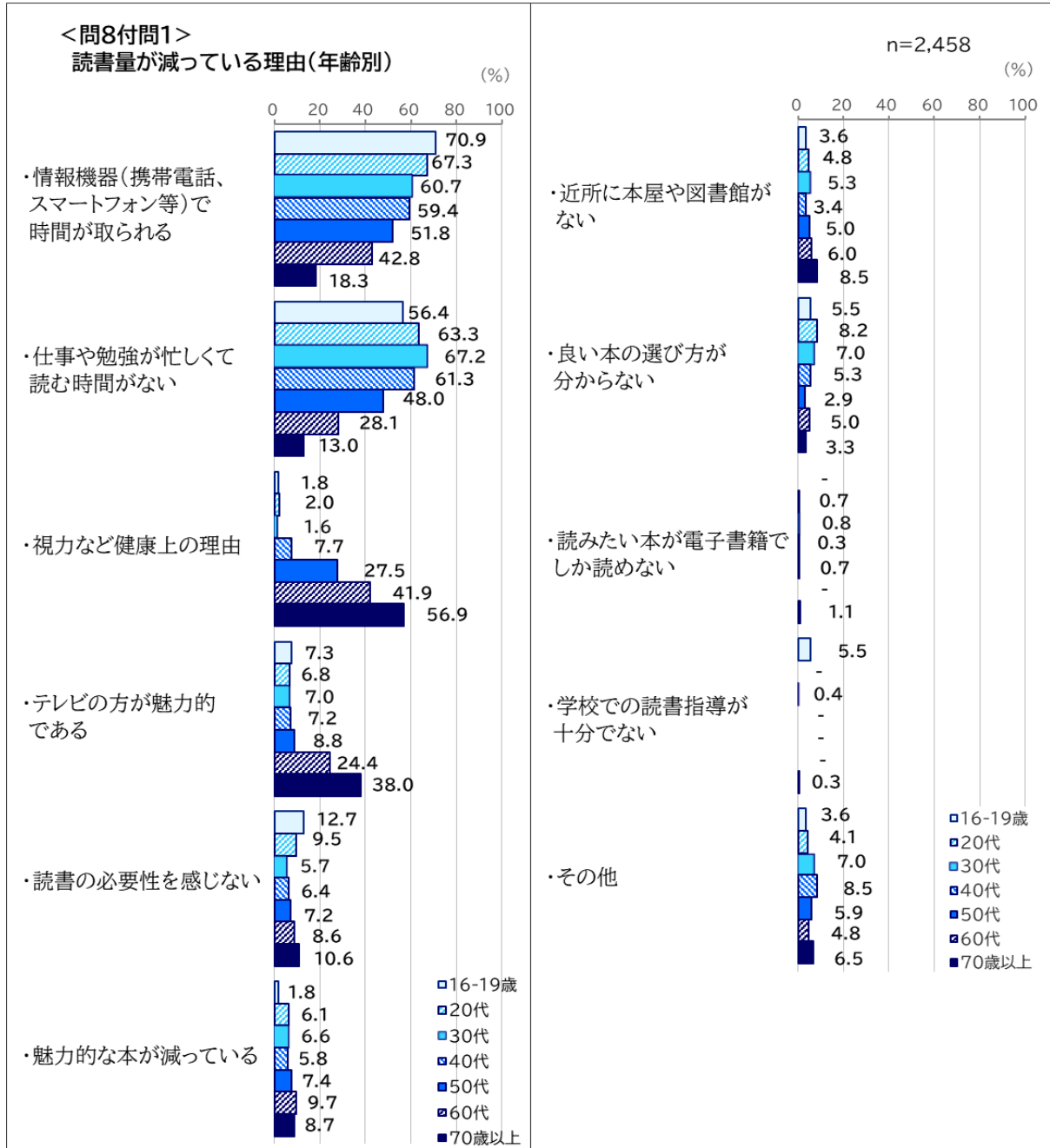
〔 問8付問1：年齢別の結果 〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「情報機器（携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン、ゲーム機等）で時間が取られる」は、年齢が低いほど割合が高くなり、20～30代で6割台、16～19歳で70.9%となっている。

「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」は、20～40代で他の年齢層より高く6割台となっている。

「視力など健康上の理由」「テレビの方が魅力的である」は、おおむね年齢が高いほど割合が高くなる傾向にある。



<問10> 電子書籍の利用 (\* p.50)

— 「利用する(計)」は約4割 —

〔問10:質問〕

あなたは、ふだん、電子書籍を利用していますか。雑誌や漫画も含みます。 (一つ回答)

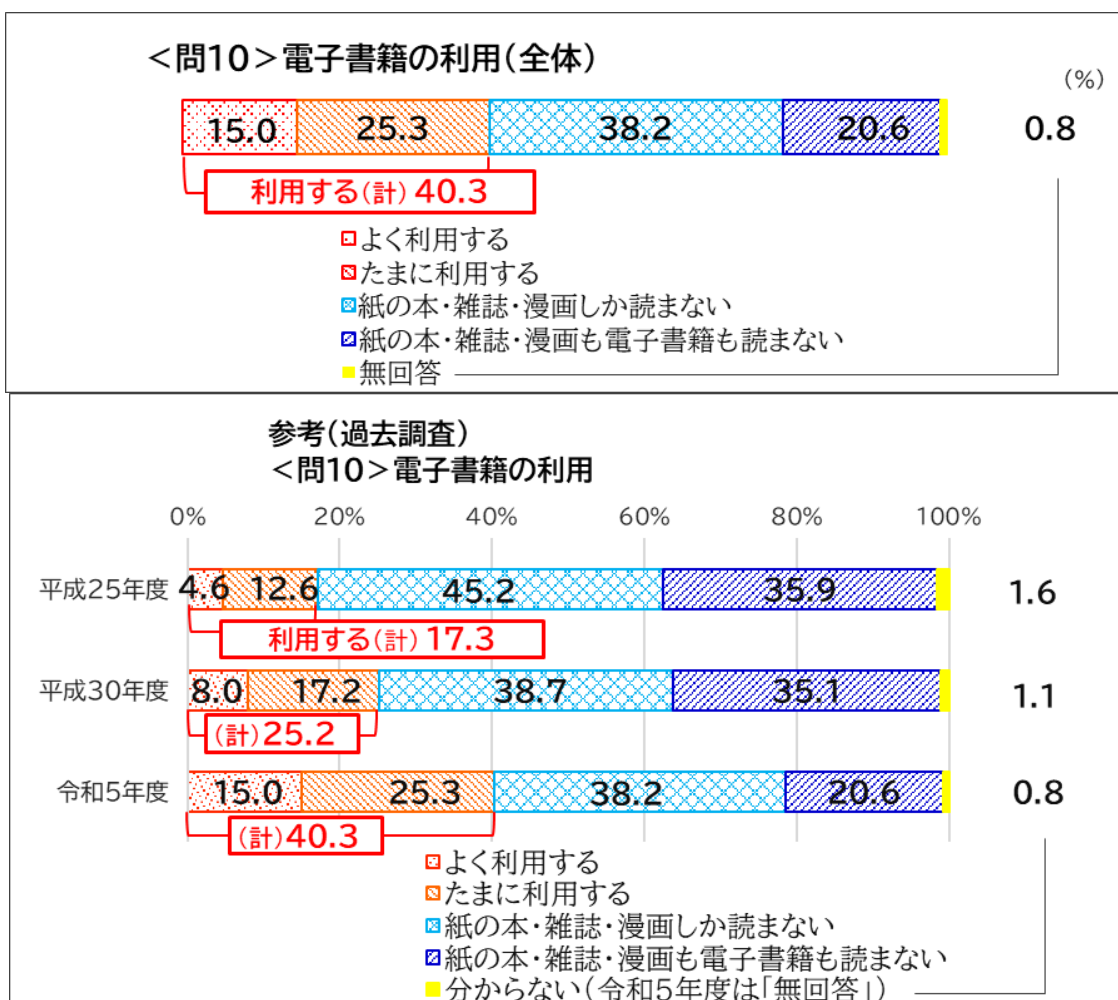
〔問10:全体の結果、(参考)過去の調査結果〕

結果は次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

「よく利用する」が15.0%、「たまに利用する」が25.3%で、両方を合わせた「利用する(計)」は40.3%となっている。「紙の本・雑誌・漫画しか読まない」が38.2%、「紙の本・雑誌・漫画も電子書籍も読まない」が20.6%となっている。

また、調査方法が変わったため、令和元(2019)年度以前の調査結果については、今回(令和5年度)の調査結果との比較に注意が必要だが、過去の調査結果(平成25、30年度)を参考値として下のグラフに示す。

過去の調査結果においては、「利用する(計)」が増加傾向にあった。



\* 調査方法の変更のため、令和元(2019)年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

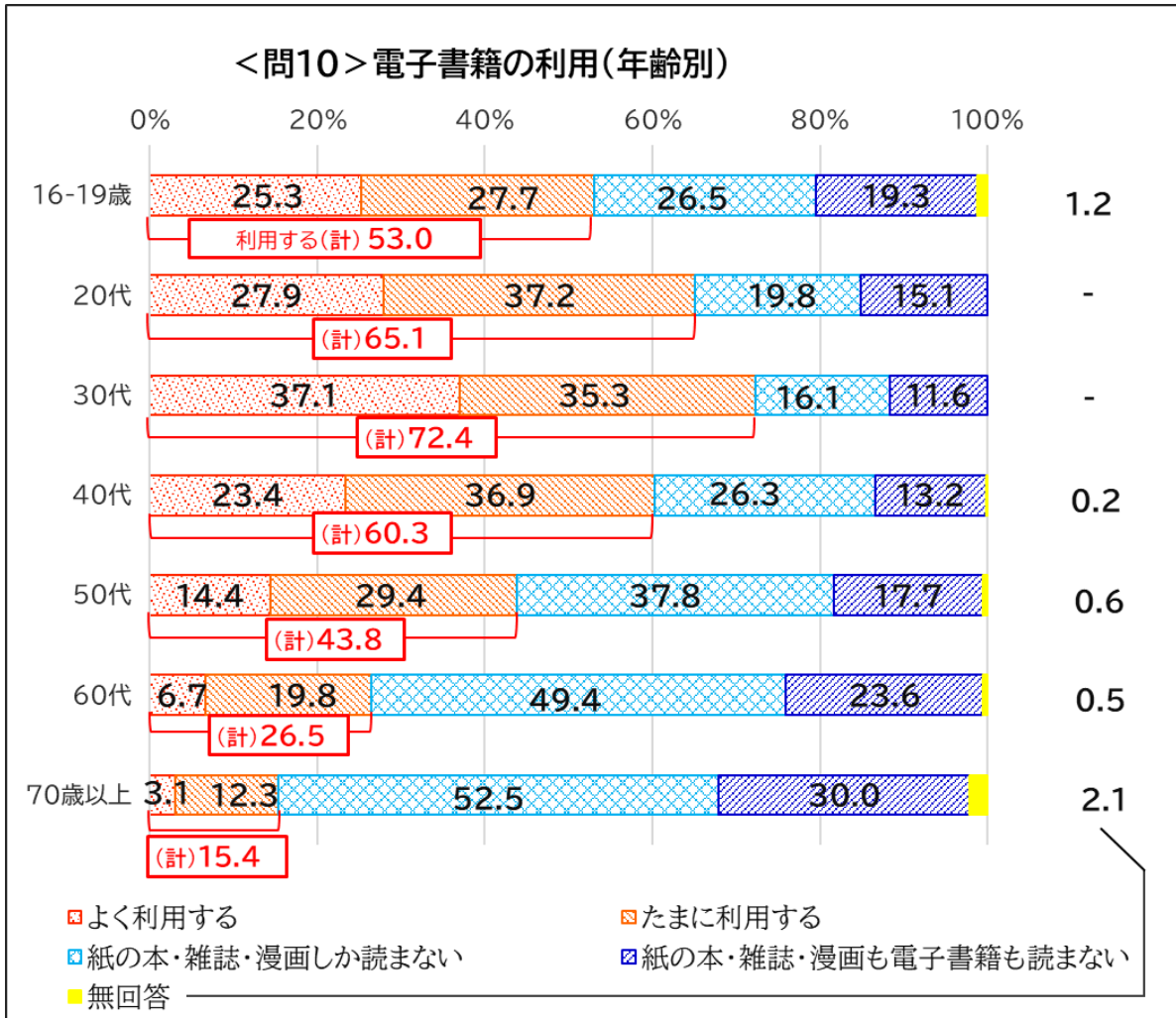
〔 問 10：年齢別の結果 〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「利用する（計）」は、40代以下で他の年齢層より高く5割を超えている。

「紙の本・雑誌・漫画しか読まない」は、60代以上で他の年齢層より高く約5割 となっている。

「紙の本・雑誌・漫画も電子書籍も読まない」は、70歳以上で他の年齢層より高く 30.0%となっている。



**<問 10 付問> 電子書籍と紙の本とでどちらを多く利用するか (\* p.52)**

— 「電子書籍の方が多い」が約4割、「紙の本・雑誌・漫画の方が多い」が約3割 —

**〔 問 10 付問：質問 〕**

(問 10 で「よく利用する」、「たまに利用する」と答えた人 (全体の 40.3%) に対して)  
電子書籍 (雑誌や漫画も含む。) と紙の本・雑誌・漫画とを比べると、どちらを利用することが多い  
ですか。 (一つ回答)

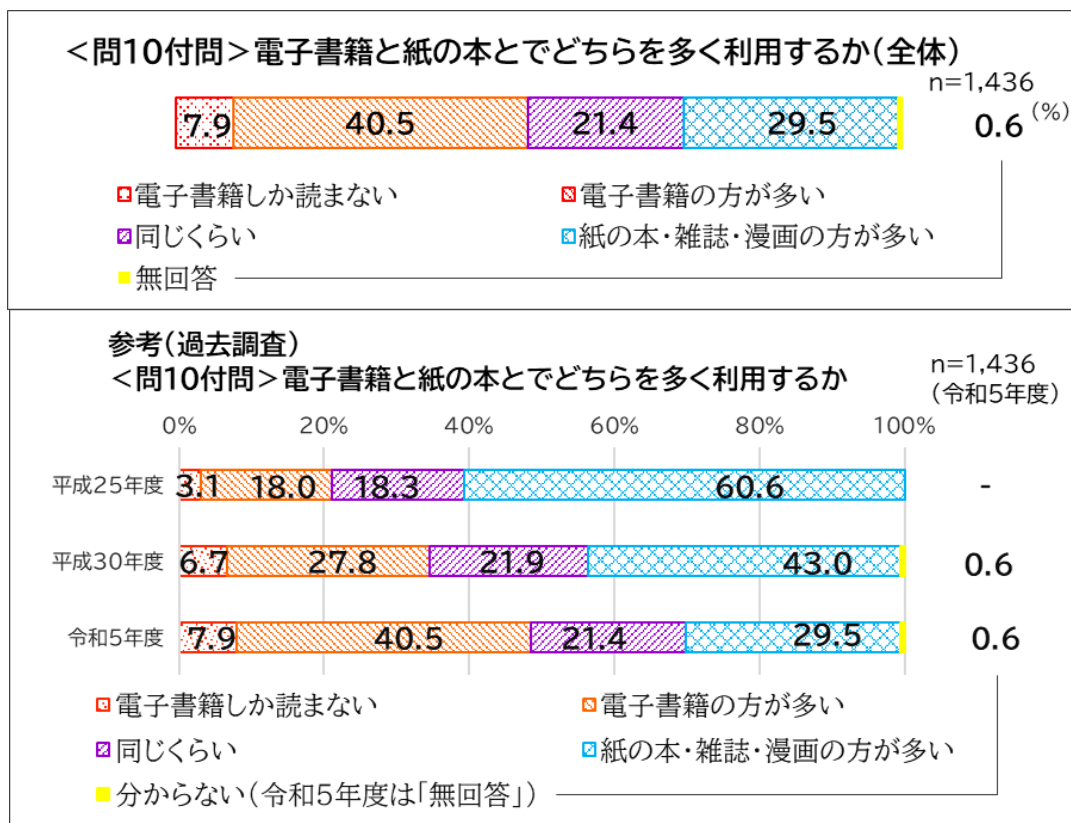
**〔 問 10 付問：全体の結果、(参考) 過去の調査結果 〕**

結果は次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

「電子書籍の方が多い」が 40.5% と最も高く、「紙の本・雑誌・漫画の方が多い」が 29.5%、「同じ  
くらい」が 21.4%、「電子書籍しか読まない」が 7.9% となっている。

また、調査方法が変わったため、令和元 (2019) 年度以前の調査結果については、今回 (令和 5 年度)  
の調査結果との比較に注意が必要だが、過去の調査結果 (平成 25、30 年度) を参考値として下のグラフ  
に示す。

過去の調査結果においては、「電子書籍の方が多い」が増加傾向にあった。

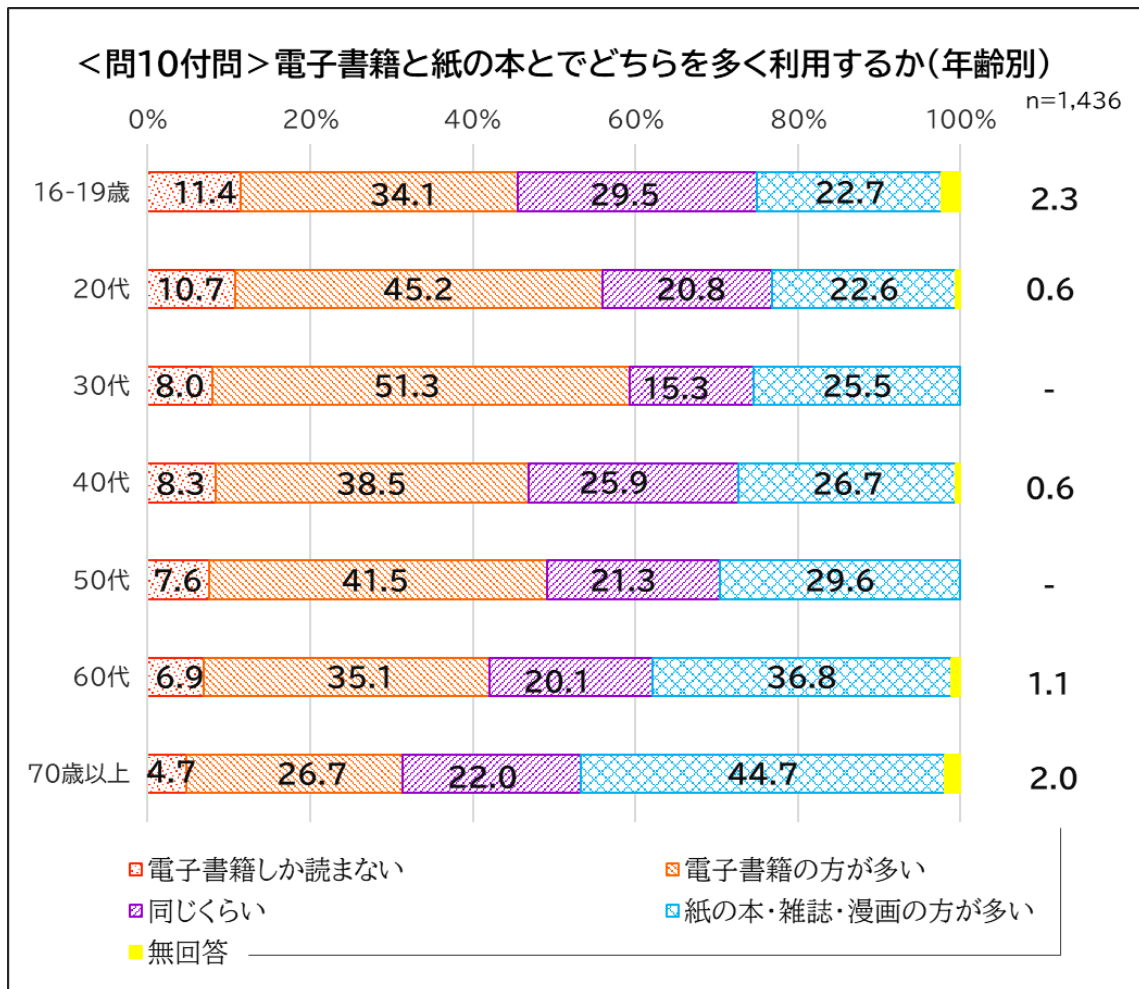


\* 調査方法の変更のため、令和元 (2019) 年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

〔 問 10 付問：年齢別の結果 〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「電子書籍の方が多い」は、30代で他の年齢層より高く51.3%となっている。「紙の本・雑誌・漫画の方が多い」は、60代以上で他の年齢層より高く3割台後半から4割台前半 となっている。



<問 11> 文字・活字による情報に触れる時間の変化 (\* p. 54)

— 「それほど変わっていない」「増えている」がそれぞれ3割台 —

〔 問 11：質問 〕

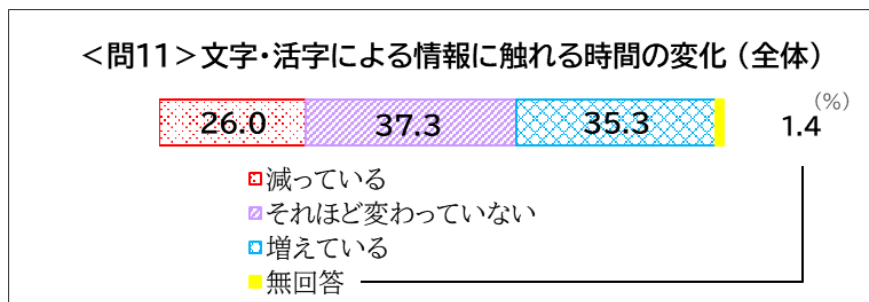
現代は、本・雑誌・漫画に限らず、スマートフォン、タブレット、携帯電話、パソコン等の情報機器によって、SNS、インターネット上の記事など、様々な文字・活字による情報に触れることができます。

そうしたものも含めて考えると、あなたが文字・活字による情報に触れる時間は、以前に比べて減っていますか。それとも、増えていますか。 (一つ回答)

〔 問 11：全体の結果 〕

結果は次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

「それほど変わっていない」が37.3%で最も高く、「増えている」が35.3%、「減っている」が26.0%となっている。



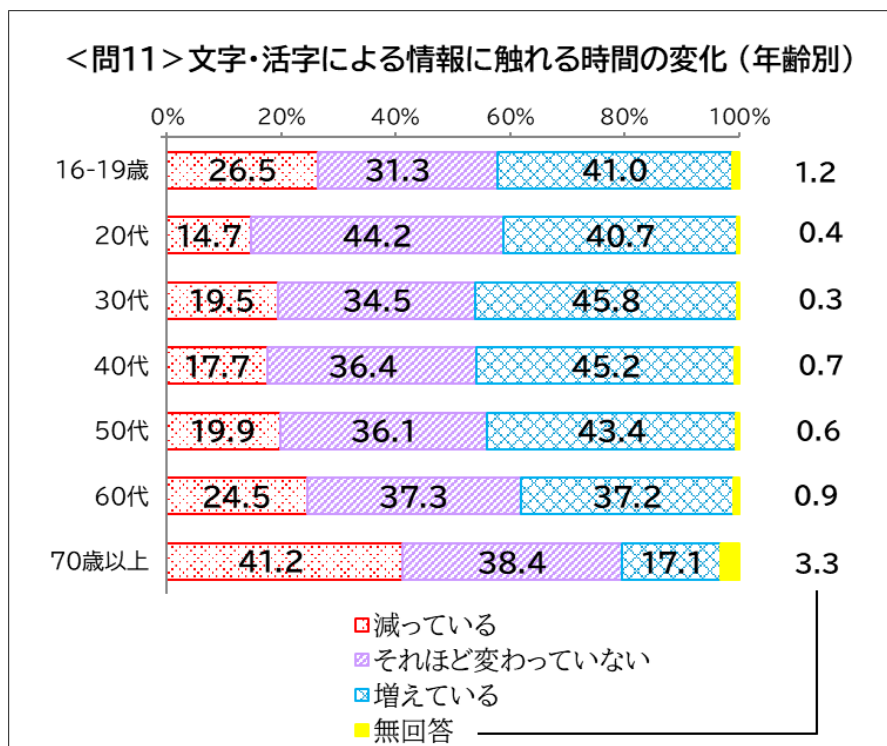
〔 問 11：年齢別の結果 〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「それほど変わっていない」は、20代で他の年齢層より高く44.2%となっている。

「増えている」は、30~40代で他の年齢層より高く4割台後半となっている。

「減っている」は、70歳以上で他の年齢層より高く41.2%となっている。



## IV 言葉遣いに対する印象や慣用句等の理解

<問12> 使うことがある言葉か（「まったく」「もふもふ」等）（\* p.56）

—「さくっ」「もふもふ」「まったく」は「使うことがある」が5割台—

### 〔問12：質問〕

あなたは、ここに挙げた（1）～（7）の下線部分の言い方を使うことがありますか。それとも、ありませんか。（一つずつ回答）

- （1）「しっかり、たくさん食べよう」といった意味で「がっつり食べよう」と言う
- （2）「ゆっくり、のんびりする」といった意味で「まったくする」と言う
- （3）「曖昧ではっきりしない目標」といった意味で「ふわっとした目標」と言う
- （4）「時間や手間をかけずに終わらせる」といった意味で「さくっと終わらせる」と言う
- （5）「筋金入りの車好き」といった意味で「ごりごりの車好き」と言う
- （6）「動物などがふんわりと柔らかそう」といった意味で「もふもふしている」と言う
- （7）「ときめきを感じる」といった意味で「きゅんきゅんする」と言う

※ 調査した七つの言葉は、擬態語に分類される。その中で、新しい意味や使い方が辞書に記載されてきたものを取り上げた。

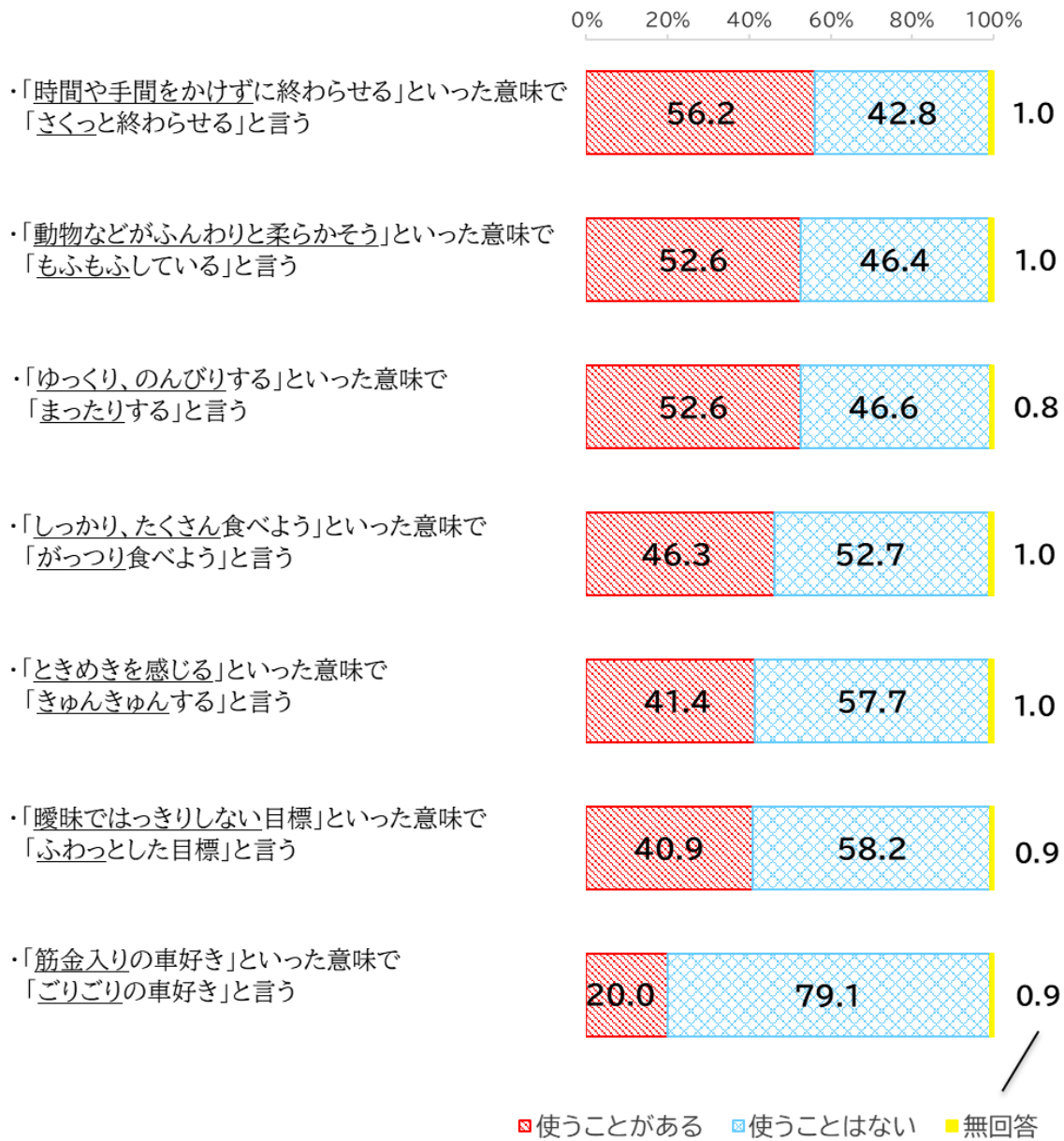
### 〔問12：全体の結果〕

結果は次のページのグラフのとおり。

下線部の言い方を「使うことがある」と回答した人の割合は、「さくっ」が56.2%、「もふもふ」、「まったく」が52.6%、「がっつり」が46.3%、「きゅんきゅん」が41.4%、「ふわっ」が40.9%、「ごりごり」が20.0%となっている。

一方、「使うことはない」の割合は、「ごりごり」が79.1%、「ふわっ」が58.2%、「きゅんきゅん」が57.7%、「がっつり」が52.7%、「まったく」が46.6%、「もふもふ」が46.4%、「さくっ」が42.8%となっている。

## <問12> 使うことがある言葉か(全体)

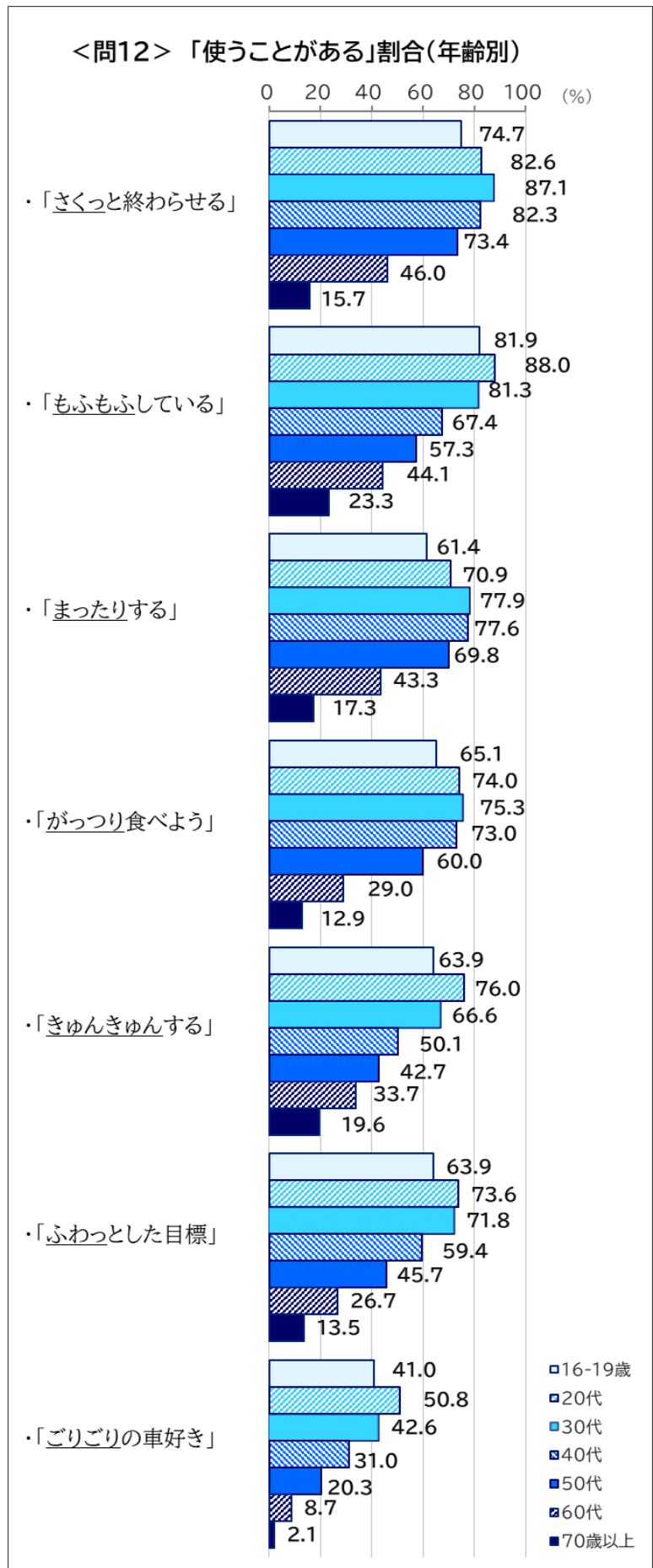




〔問12：年齢別の結果〕

年齢別に「使うことがある」を選択した人の割合を見ると、次のグラフのとおり。

どの言い方においても、60代以上では、「使うことがある」を選択した人の割合が、ほかの年齢層より低い傾向にある。また、「もふもふしている」「きゅんきゅんする」「ふわっとした目標」「ごりごりの車好き」は、おおむね年齢が高いほど割合が低くなっている。



<問13> 気になる言葉か（「まったり」「もふもふ」等）（\* p.61）

— 「まったり」「がっつり」は「気にならない」が8割台半ば —

〔問13：質問〕

ここに挙げた（1）～（7）の下線部分の言い方をほかの人が使うのが気になりますか。それとも、気になりませんか。（一つずつ回答）

- （1）「しっかり、たくさん食べよう」といった意味で「がっつり食べよう」と言う
- （2）「ゆっくり、のんびりする」といった意味で「まったりする」と言う
- （3）「曖昧ではっきりしない目標」といった意味で「ふわっとした目標」と言う
- （4）「時間や手間をかけずに終わらせる」といった意味で「さくっと終わらせる」と言う
- （5）「筋金入りの車好き」といった意味で「ごりごりの車好き」と言う
- （6）「動物などがふんわりと柔らかそう」といった意味で「もふもふしている」と言う
- （7）「ときめきを感じる」といった意味で「きゅんきゅんする」と言う

※ 調査した七つの言葉は、擬態語に分類される。その中で、新しい意味や使い方が辞書に記載されてきたものを取り上げた。

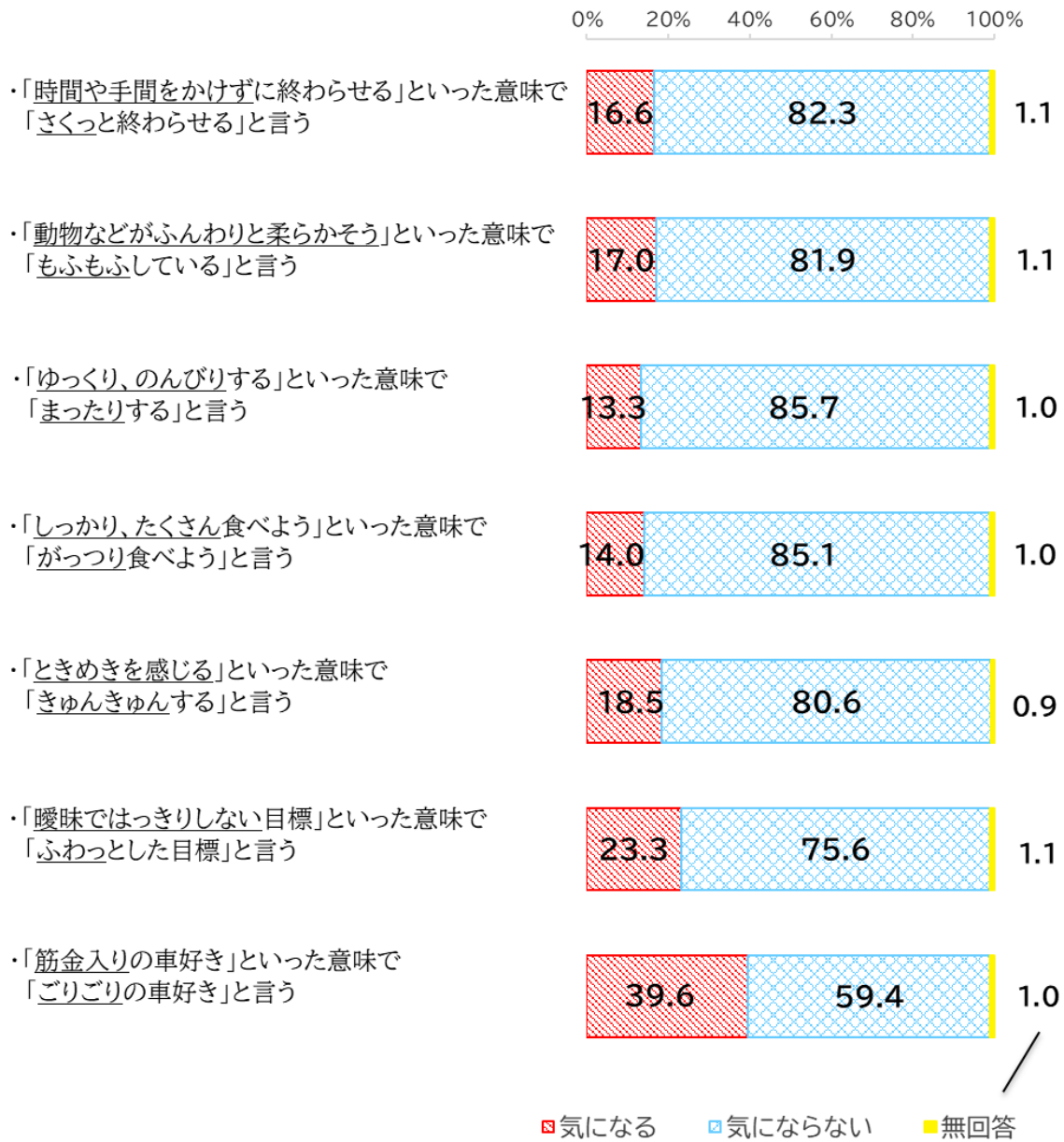
〔問13：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。（並び順は問12に合わせている。）

下線部の言い方を「気にならない」と回答した人の割合は、「まったり」が85.7%、「がっつり」が85.1%、「さくっ」が82.3%、「もふもふ」が81.9%、「きゅんきゅん」が80.6%、「ふわっ」が75.6%、「ごりごり」が59.4%となっている。

一方、「気になる」の割合は、「ごりごり」が39.6%、「ふわっ」が23.3%、「きゅんきゅん」が18.5%、「もふもふ」が17.0%、「さくっ」が16.6%、「がっつり」が14.0%、「まったり」が13.3%となっている。

### <問13> 気になる言葉か(全体)

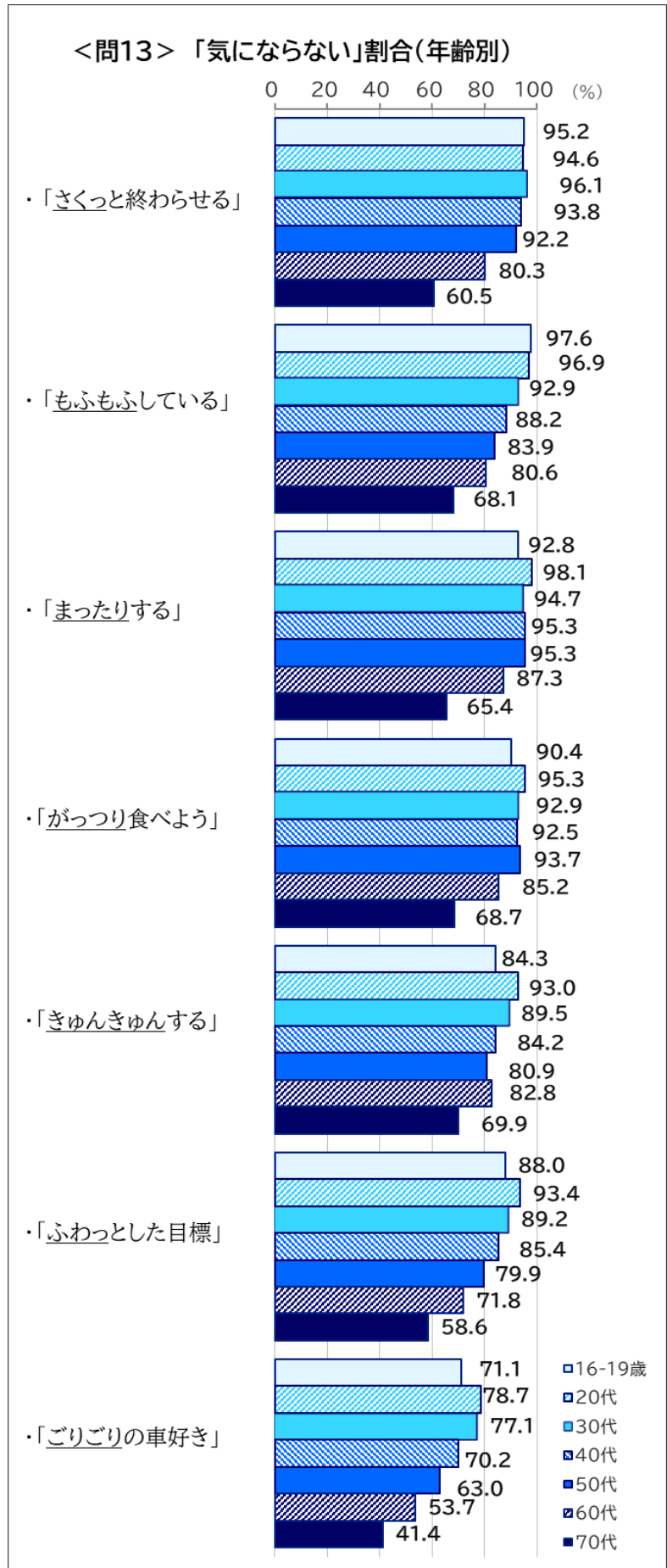


〔 問 13：年齢別の結果 〕

年齢別に「気にならない」を選択した人の割合を見ると、次のグラフのとおり。（並び順は問 12 に合わせている。）

どの言い方においても、「気にならない」を選択した人の割合が 70 歳以上で、ほかの年齢層より低くなっている。

また、「もふもふしている」「ふわっとした目標」「ごりごりの車好き」は、おおむね年齢が高いほど割合が低くなっている。



〈問 14〉 どちらの言い方をするか（「間髪を入れず」「綺羅星のごとく」等）

（\* p.65）

— 尋ねた三つ全てで、本来の言い方とされてきたものとは異なる方が多く選択されている —

〔問 14：質問〕

あなたは、ここに挙げた（1）～（3）の言葉について、それぞれ、（ア）と（イ）のどちらの言い方をしますか。（一つずつ回答）

- （1）間髪を入れず      （2）綺羅星のごとく      （3）好事魔多し

〔問 14：全体・（参考）過去の調査との比較〕

結果は下の表のとおり。選択肢は表に示している。なお、辞書等で主に本来の言い方とされてきたものを太字で記した。

今回尋ねた(1)「間髪を入れず」、(2)「綺羅星のごとく」、(3)「好事魔多し」の全てにおいて、辞書等で本来の言い方とされてきたものとは異なる方が多く選択されるという結果となっている。

〈問 14 どちらの言い方をするか〉（数字は%）

(1)	間髪を入れず	
	(ア) 「 <small>かんぱつ</small> 間髪を入れず」と続けて言う	<b>91.0</b>
	(イ) 「 <small>かん</small> 間、 <small>はつ</small> 髪を入れず」と区切って言う	6.5
	(ア) と (イ) の両方	1.8
	無回答	0.8
(2)	綺羅星のごとく	
	(ア) 「 <small>きらぼし</small> 綺羅星のごとく」と続けて言う	88.6
	(イ) 「 <small>きら</small> 綺羅、 <small>ほし</small> 星のごとく」と区切って言う	<b>9.2</b>
	(ア) と (イ) の両方	1.4
	無回答	0.7
(3)	好事魔多し	
	(ア) 「 <small>こうじま</small> 好事魔、 <small>おお</small> 多し」と区切って言う	65.3
	(イ) 「 <small>こうじ</small> 好事、 <small>ま</small> 魔、 <small>おお</small> 多し」と区切って言う	<b>30.6</b>
	(ア) と (イ) の両方	2.8
	無回答	1.3

〔 問 14：年齢別の結果 〕

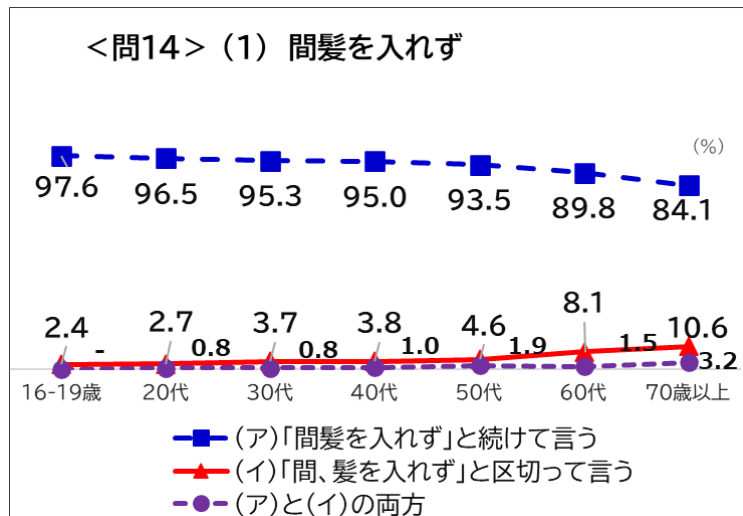
(1)～(3)について年齢別に見ると、それぞれ次のグラフのとおり。

※ 辞書等で主に本来の言い方とされてきたものを実線（▲）で表示した。

(1) 間髪を入れず

全ての年齢層で、辞書等で元の言い方とされてきたものとは異なる（ア）「「間髪を入れず」と続けて言う」を選択した人の割合が、元の言い方とされてきた（イ）「「間、髪を入れず」と区切って言う」を上回っている。

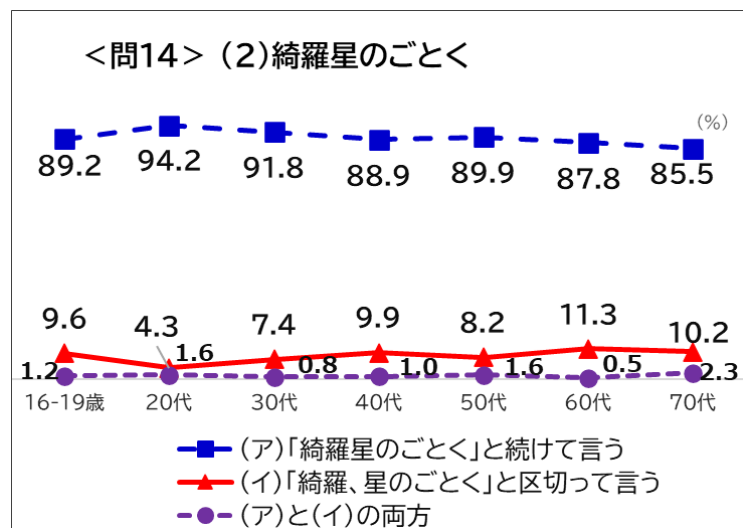
全ての年齢層で、（ア）を選択した人の割合と（イ）を選択した人との割合に 70 ポイント以上の差がある。



(2) 綺羅星のごとく

全ての年齢層で、辞書等で本来の言い方とされてきたものとは異なる（ア）「「綺羅星のごとく」と続けて言う」を選択した人の割合が、本来の言い方とされてきた（イ）「「綺羅、星のごとく」と区切って言う」を上回っている。

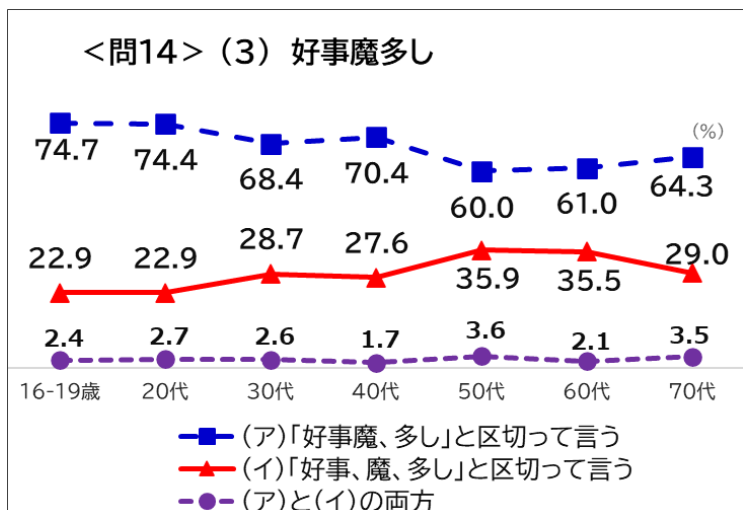
全ての年齢層で、（ア）を選択した人の割合と（イ）を選択した人との割合に 70 ポイント以上の差がある。



(3) 好事魔多し

全ての年齢層で、辞書等で本来の言い方とされてきたものとは異なる（ア）「「好事魔、多し」と区切って言う」を選択した人の割合が、本来の言い方とされてきた（イ）「「好事、魔、多し」と区切って言う」を上回っている。

中でも 20 代以下では、（ア）を選択した人の割合と（イ）を選択した人との割合に 50 ポイント以上の差がある。



<問 15> どちらの意味だと思うか（「悲喜こもごも」「失笑する」等）

（＊ p.69）

— 「悪運が強い」「失笑する」などは、  
本来の意味とされてきたものとは異なる方が多く選択されている —

〔 問 15：質問 〕

ここに挙げた（1）～（5）の言葉は、それぞれ（ア）と（イ）のどちらだと思いますか。  
（一つずつ回答）

- （1）悲喜こもごも                      （2）悪運が強い                      （3）煮え湯を飲まされる  
（4）うがった見方をする              （5）失笑する

〔 問 15：全体・（参考）過去の調査との比較 〕

結果は下の表のとおり。選択肢は、表で示している。なお、辞書等で主に本来の意味とされてきたものを太字で記した。

今回尋ねた五つの語句のうち、(1)「悲喜こもごも」、(2)「悪運が強い」、(4)「うがった見方をする」、(5)「失笑する」は、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる方が多く選択されるという結果となっている。一方、(3)「煮え湯を飲まされる」は、辞書等で本来の意味とされてきたものの方が、そうでないものより多く選択されている。

また、調査方法が変わったため、令和元（2019）年度以前の調査結果については、今回（令和5年度）の調査結果との比較に注意が必要だが、過去の調査結果を参考値として表に示す。

〈 問 15 どちらの意味だと思うか 〉（数字は％）

(1)	<b>悲喜こもごも</b>	令和5年度
	（ア）悲しむ人と喜ぶ人が様々にいること	49.7
	<b>（イ）悲しみと喜びを次々に味わうこと</b>	<b>43.4</b>
	（ア）と（イ）の両方	5.1
	（ア）、（イ）とは、全く別の意味	1.3
	無回答	0.6
(2)	<b>悪運が強い</b>	令和5年度
	（ア）悪い行いをしたのに、報いを受けずにいる様子	<b>24.3</b>
	（イ）悪い状況になっても、うまく助かる様子	67.2
	（ア）と（イ）の両方	5.4
	（ア）、（イ）とは、全く別の意味	2.7
	無回答	0.4

〈 問 15 どちらの意味だと思うか（続き） 〉（数字は％）

	煮え湯を飲まされる	令和5年度	平成23年度
(3)	(ア) 信頼していた者から裏切られる	68.5	64.3
	(イ) 敵からひどい目に遭わされる	24.4	23.9
	(ア) と (イ) の両方	5.3	3.9
	(ア)、(イ) とは、全く別の意味	1.0	1.3
	無回答	0.7	
	分からない		6.6
	うがった見方をする	令和5年度	平成23年度
(4)	(ア) 物事の本質を捉えた見方をする	32.7	26.4
	(イ) 疑って掛かるような見方をする	60.7	48.2
	(ア) と (イ) の両方	2.8	2.1
	(ア)、(イ) とは、全く別の意味	2.3	2.9
	無回答	1.5	
	分からない		20.3
	失笑する	令和5年度	平成23年度
(5)	(ア) こらえ切れず吹き出して笑う	26.4	27.7
	(イ) 笑いも出ないくらいあきれる	67.0	60.4
	(ア) と (イ) の両方	3.1	2.7
	(ア)、(イ) とは、全く別の意味	3.0	4.1
	無回答	0.6	
	分からない		5.2

\* 調査方法の変更のため、令和元（2019）年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。



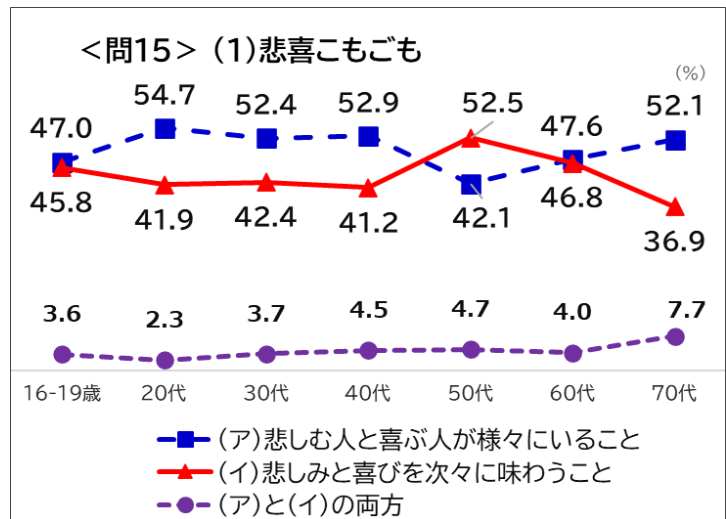
〔 問15：年齢別の結果 〕

(1)～(5)について年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

※ 辞書等で主に本来の意味とされてきたものを実線（—▲—）で表示した。

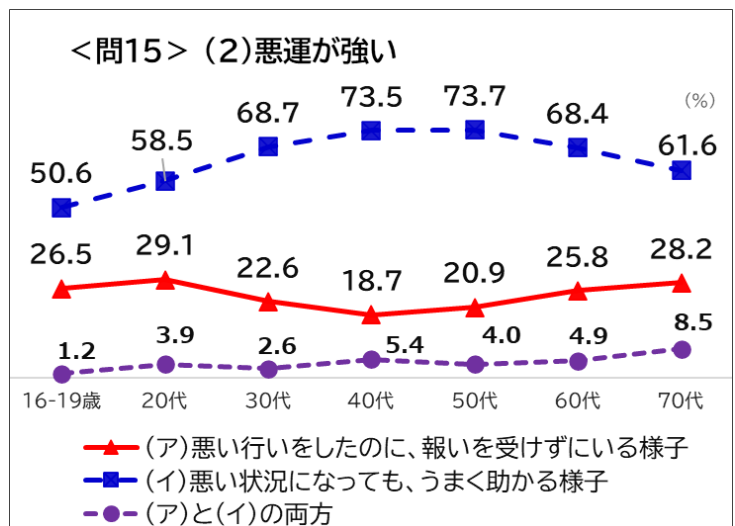
(1) 悲喜こもごも

20～40代と70歳以上で、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる(ア)「悲しむ人と喜ぶ人が様々にいること」を選択した人の割合が、本来の意味とされてきた(イ)「悲しみと喜びを次々に味わうこと」を上回っている。



(2) 悪運が強い

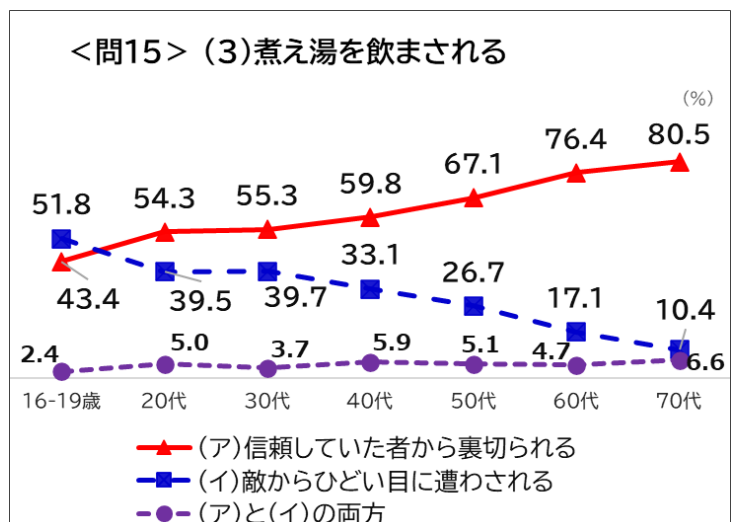
全ての年齢層で、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる(イ)「悪い状況になっても、うまく助かる様子」を選択した人の割合が、本来の意味とされてきた(ア)「悪い行いをしたのに、報いを受けずにいる様子」を上回っている。



(3) 煮え湯を飲まされる

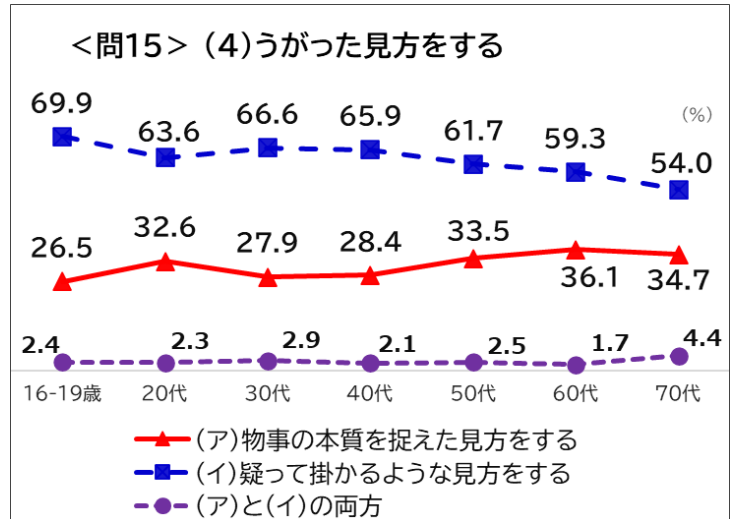
20代以上で、辞書等で本来の意味とされてきた(ア)「信頼していた者から裏切られる」を選択した人の割合が、本来の意味とされてきたものとは異なる(イ)「敵からひどい目に遭わされる」を上回っている。

年齢が高くなるほど、その傾向は強くなり、70歳以上では(ア)を選択した人の割合と(イ)を選択した人との割合に70ポイント以上の差がある。



(4) うがった見方をする

全ての年齢層で、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる(イ)「疑って掛かるような見方をする」を選択した人の割合が、本来の意味とされてきた(ア)「物事の本質を捉えた見方をする」を上回っている。



(5) 失笑する

全ての年齢層で、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる(イ)「笑いも出ないくらいあきれる」を選択した人の割合が、本来の意味とされてきた(ア)「こらえ切れず吹き出して笑う」を上回っている。

